

令和2年度

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

目 次

はじめに (ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山倉 健嗣)	1
-------------------------------------	---

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告	2
(2) 授業改善のためのアンケート実施概要	3
(3) 授業改善のためのアンケート集計結果	6

2 各学部の令和2年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部	36
(2) 文学部	38
(3) 社会情報学部	40
(4) 人間関係学部	42
(5) 比較文化学部	44
(6) 短期大学部	46

3 人間文化研究科の令和2年度FD活動	48
---------------------	----

参考資料

1. 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	67
2. 令和2年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿	69

はじめに

令和2年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和2年度のFD活動報告書をお届けいたします。作成にご協力いただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和2年度のFD活動の成果をまとめたものです。全学および学部、研究科のFD活動から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和2年度は今までとは違う状態で授業が行われました。新型コロナウイルス感染症のもとでの授業という異常な展開となりました。授業開始が通常の1か月遅れの5月連休明けでした。授業開始にあたっては教員による、オンライン授業の開始のための準備が行われました。教育現場では今までにはなかったことに直面し、教員も学生も模索・試行錯誤の日々を送ることになりました。前期は対面授業ではないオンライン授業が継続し、後期もオンライン授業が主体で、実技実習などの科目が対面授業として行われ、ともかく異常な一年でした。

学生の授業評価は、令和元年度の委員会での決定を踏まえて、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられることになりました。また初めての試みとして、Webで授業評価を実施しました。Webでの授業評価を実施した他大学の例では、20%—30%の回収率であるといわれており、回収率の向上が課題でしたが、前期では担当教員と教育支援センターの協力により回収率60%を超えることができましたが、後期は50%を切る状況でした。今後回収率を向上させる方策を考える必要があります。Webでの評価に対応するためにアンケートの項目を整理するとともに、はじめの項目として授業についての自由記述欄を設けるなどの改善を行いました。

前期の授業評価では授業が全てオンライン授業となったという現実を踏まえて、授業形態についての項目を追加、manabaの活用状況についての設問も加えました。後期でもオンライン授業が主体で対面授業も行われたことにより、アンケートの設問内容も変更するなど、アンケート項目については柔軟に対応しました。学生の授業評価についての詳細は報告書をご覧ください。

しかし、例年通りのFD活動は残念ながら十分に実施することができませんでした。年2回の、FDに関する他大学の取り組みを含め、情報共有の貴重な場であった、FD講演会を行うことができませんでした。教員相互の授業参観（公開授業）も実施できませんでした。多くの各学科専攻の授業担当者懇談会は対面、オンラインで行われました。オンライン授業の問題点を共有するとともに改善への重要な示唆がありました。

前期の終了段階で、専任教員にオンライン授業に関するアンケートを行いました。オンライン授業については概ね肯定的な評価でした。教員にとっては今までよりも授業のための準備に時間がかかること、オンライン授業では学生とのコミュニケーションが難しかったこと、manabaなどを活用し課題を日常的に課しそれをフィードバックすることが重要であったことなどの意見がありました。

令和3年度も従来以上にFD活動の重要性は高まるでしょう。令和2年度の経験を反省しつつ、教育内容・方法のたゆまぬ努力改善をしていきたいと思います。

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告

①概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて、授業担当の教員(専任及び非常勤)による学生指導に関する各位のご所見・ご抱負など活発な意見交換が行われた。

②実施内容(学科・専攻別懇談会)

千代田キャンパス

家政学部 被服学科	対面:10月31日(土)
家政学部 食物学科	オンライン:10月31日(土)
家政学部 児童学科	オンライン:10月31日(土)
家政学部 ライフデザイン学科	対面:10月31日(土)
文学部 日本文学科	対面:10月31日(土)
文学部 英語英文学科/英文学科	オンライン:10月17日(土)
文学部 コミュニケーション文化学科	オンライン:8月20日(木)
社会情報学部 社会情報学科社会生活情報学専攻	オンライン:9月19日(土)
社会情報学部 社会情報学科環境情報学専攻	オンライン:9月18日(金)
社会情報学部 社会情報学科情報デザイン専攻	オンライン:9月19日(土)
比較文化学部 比較文化学科	対面・オンライン:10月31日(土)
短期大学部 家政科家政専攻	対面:10月31日(土)
短期大学部 家政科生活総合ビジネス専攻	オンライン:11月5日(木)
短期大学部 家政科食物栄養専攻	オンライン:10月31日(土)
短期大学部 国文科	オンライン:10月31日(土)
短期大学部 英文科	オンライン:10月31日(土)
全学共通科目(基礎科目・教養科目)	対面:10月31日(土)
教職課程	オンライン:11月3日(火)
図書館学課程	オンライン:10月31日(土)
博物館学芸員課程	オンライン:10月31日(土)

多摩キャンパス

人間関係学部 人間関係学科社会学専攻	オンライン:11月7日(土)
人間関係学部 人間関係学科社会・臨床心理学専攻	オンライン:10月31日(土)
人間関係学部 人間福祉学科	オンライン:10月31日(土)

(2) 授業改善のためのアンケート実施概要

①概要

令和元年度までの「授業に関するアンケート」を「授業改善のためのアンケート」として名称や設問内容を変更し、また実施方法もマークシート方式から Web 方式に変更のうえ、前・後期においてそれぞれ授業改善のためのアンケートを実施した。

実施科目数及び回答学生数は次のとおりであった。

実施科目数 前期：1,514 科目

後期：1,457 科目

回答学生数 前期：41,643 名（受講者数 66,831 名 回答率 62.31%）

後期：23,425 名（受講者数 59,372 名 回答率 39.45%）

②実施時期

前期：令和 2 年 7 月 9 日(木)～8 月 5 日(水)

後期：令和 3 年 1 月 9 日(土)～1 月 30 日(土)

③実施方法

前期・後期ともに、大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」(UNIPA) で実施した。

④調査項目（4～5 ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。

※分類：全体、学部別、学生所属別、学年別、授業別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別
また、集計結果は、UNIPA 上で授業担当者に公開している。

令和2年度前期 大妻女子大学 「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望及びオンライン授業に関する感想・意見を書いてください

2. 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか (必須)

- ⑤ そう思う ④ ややそう思う ③ どちらともいえない
 ② あまりそう思わない ① そう思わない ① わからない/判断しづらい

3. 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。(必須)

- ⑤ 3時間以上 ④ 2時間以上3時間未満 ③ 1時間以上2時間未満
 ② 30分以上1時間未満 ① 30分未満 ① していない

4. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか (必須)

- ⑤ そう思う ④ ややそう思う ③ どちらともいえない
 ② あまりそう思わない ① そう思わない ① わからない/判断しづらい

5. シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか (必須)

- ⑤ そう思う ④ ややそう思う ③ どちらともいえない
 ② あまりそう思わない ① そう思わない ① わからない/判断しづらい

6. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか (必須)

- ⑤ そう思う ④ ややそう思う ③ どちらともいえない
 ② あまりそう思わない ① そう思わない ① わからない/判断しづらい

7. オンライン授業はどのような方法で実施されましたか<複数回答可> (必須)

- テキスト(教材)提示
 スライド(PowerPoint)
 音声データとテキスト(PowerPoint/PDF等)
 動画視聴(YouTube等)
 リアルタイム動画配信(Zoom等)
 リアルタイム双方向型(Zoom等)
 その他

8. オンライン授業においてmanabaはどのように活用されましたか<複数回答可> (必須)

- 予習復習(アンケートなど)
 小テスト
 レポート提出
 中間/期末テスト
 コースコンテンツ
 プロジェクト
 コースニュース
 掲示板
 レスポン
 その他

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

回答

令和2年度後期 大妻女子大学 「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか<複数回答可>

※PPT:PowerPointの略(必須)

- オンデマンド型:テキスト(教材)提示
- オンデマンド型:スライド(PPT)
- オンデマンド型:音声データとテキスト(PPT/PDF等)
- オンデマンド型:動画視聴(YouTube等)
- リアルタイム型:動画配信(Zoom等)
- リアルタイム型:双方向型(Zoom等)
- 対面

3. 問2で回答した授業形態に満足していますか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

4. 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

5. 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。(必須)

- ⑤3時間以上 ④2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満
- ②30分以上1時間未満 ①30分未満 ①していない

6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい/発言の機会がなかった

7. シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

8. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

9. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか<複数回答可>(必須)

- 予習復習(アンケートなど)
- 小テスト
- レポート提出
- 中間/期末テスト
- コースコンテンツ
- プロジェクト
- コースニュース
- 掲示板
- レスポン
- その他

10. あなたは授業に満足しましたか。(必須)

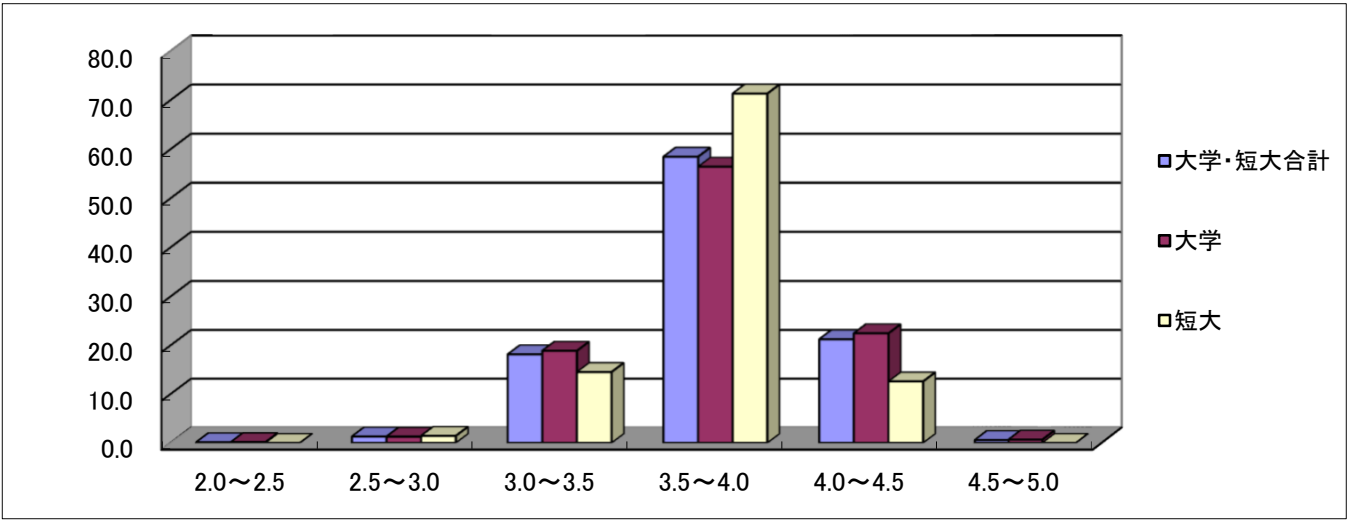
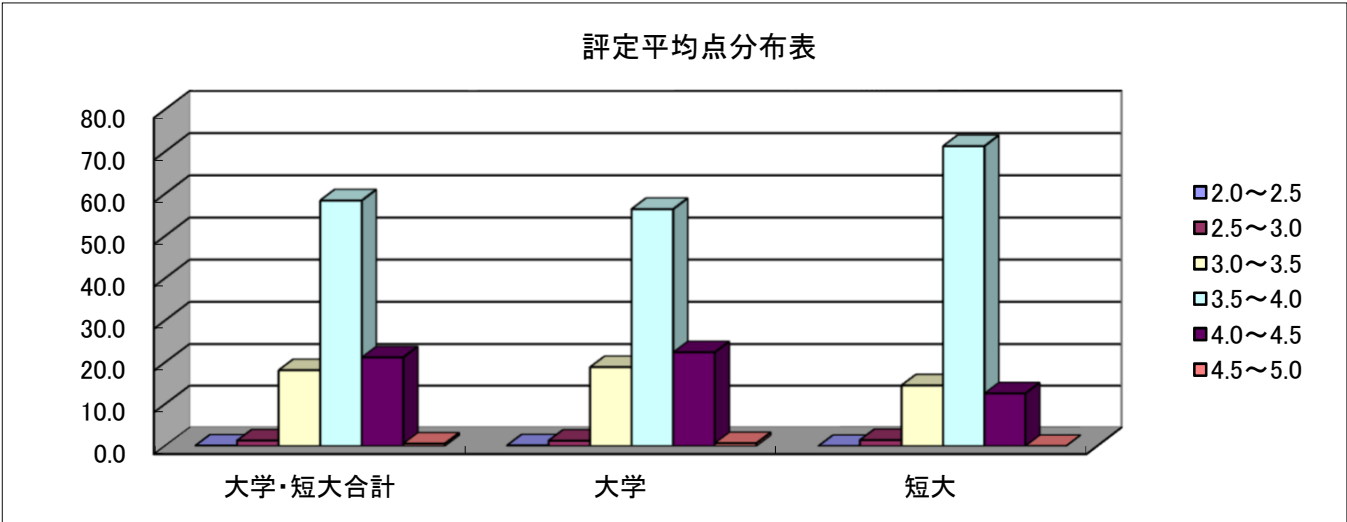
- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

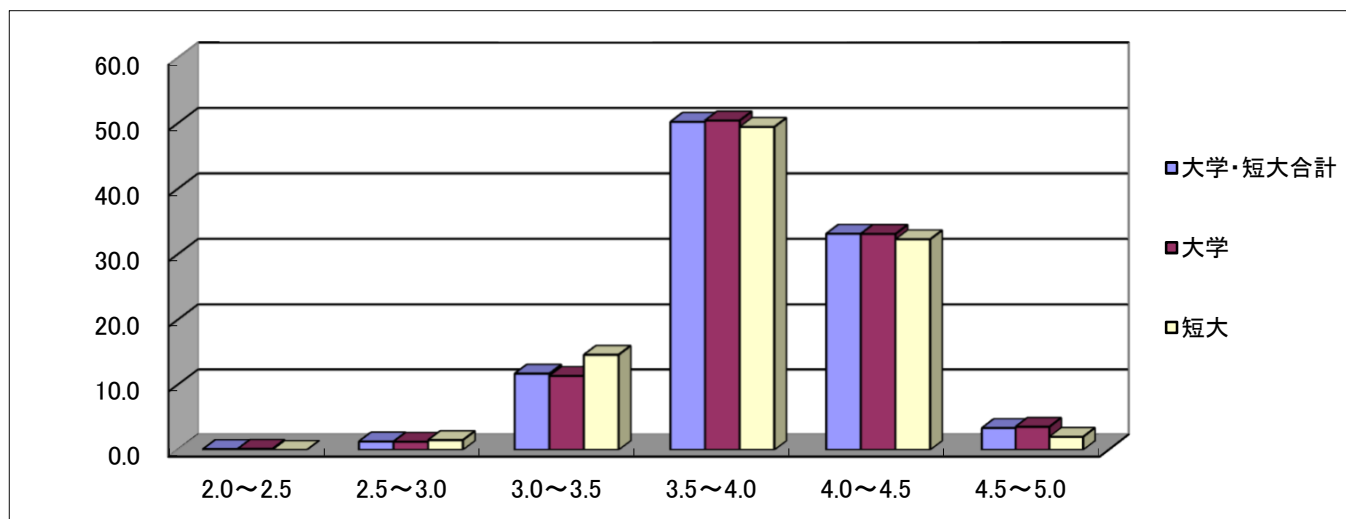
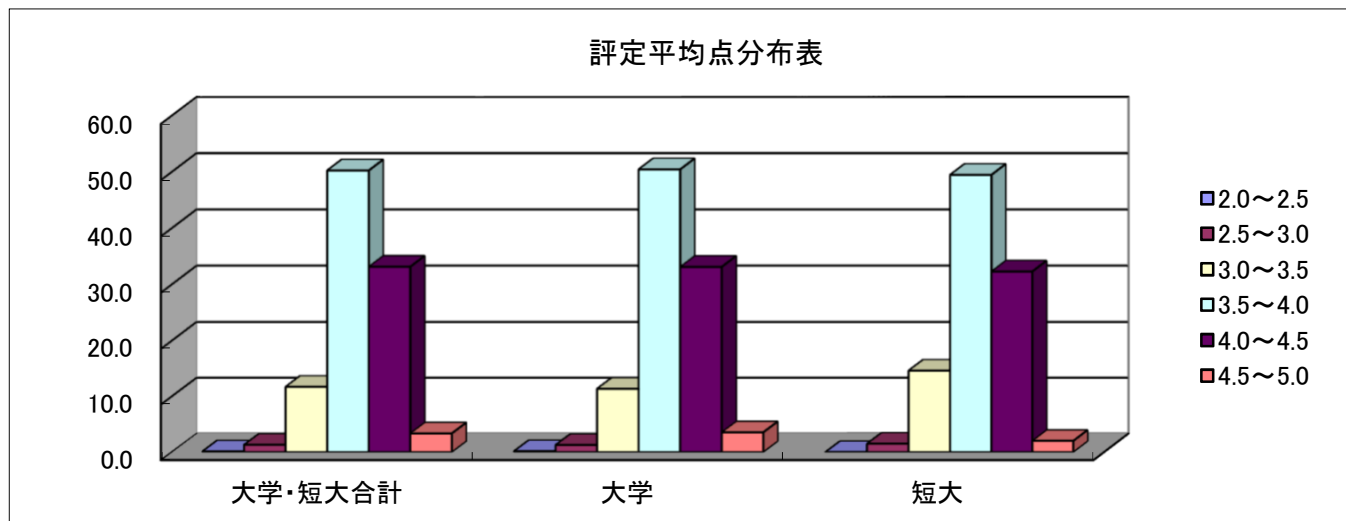
2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0~2.5	2	0.1	2	0.2	0	0.0
2.5~3.0	20	1.3	17	1.3	3	1.5
3.0~3.5	275	18.2	249	18.9	30	14.6
3.5~4.0	885	58.5	743	56.5	147	71.4
4.0~4.5	322	21.3	296	22.5	26	12.6
4.5~5.0	9	0.6	9	0.7	0	0.0



2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0~2.5	2	0.1	2	0.2	0	0.0
2.5~3.0	19	1.3	16	1.3	3	1.5
3.0~3.5	171	11.7	144	11.4	29	14.6
3.5~4.0	732	50.3	638	50.5	98	49.5
4.0~4.5	483	33.2	419	33.1	64	32.3
4.5~5.0	49	3.4	45	3.6	4	2.0



2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

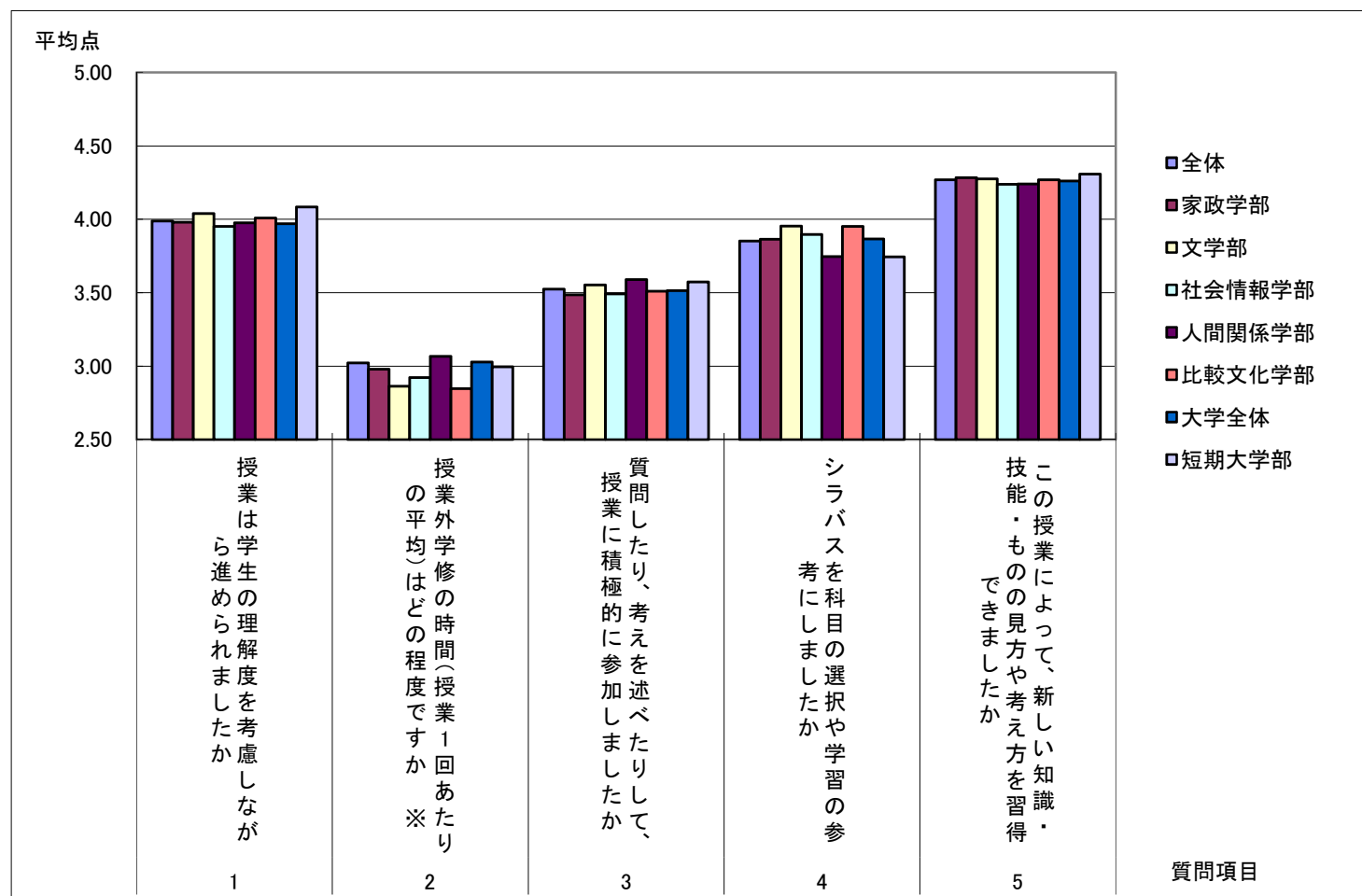
対象科目数	実施科目数	未実施科目数
1,519	1,514	5

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
履修者数	66,690	30,809	26,016	25,414	9,506	22,421	59,902	7,146
回答者数	41,596	19,382	16,541	15,841	5,602	14,378	36,230	5,596
回答率(%)	62.37	62.91	63.58	62.33	58.93	64.13	60.48	78.31

※全学共通科目等の人数は全ての該当学部にカウントされているため、[大学全体]の値と合致しない。

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
2 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.99	3.98	4.04	3.95	3.98	4.01	3.97	4.08
3 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.02	2.98	2.86	2.92	3.07	2.85	3.03	2.99
4 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.52	3.49	3.55	3.49	3.59	3.51	3.51	3.57
5 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.85	3.86	3.95	3.90	3.75	3.95	3.87	3.75
6 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.27	4.28	4.28	4.24	4.24	4.27	4.26	4.31

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

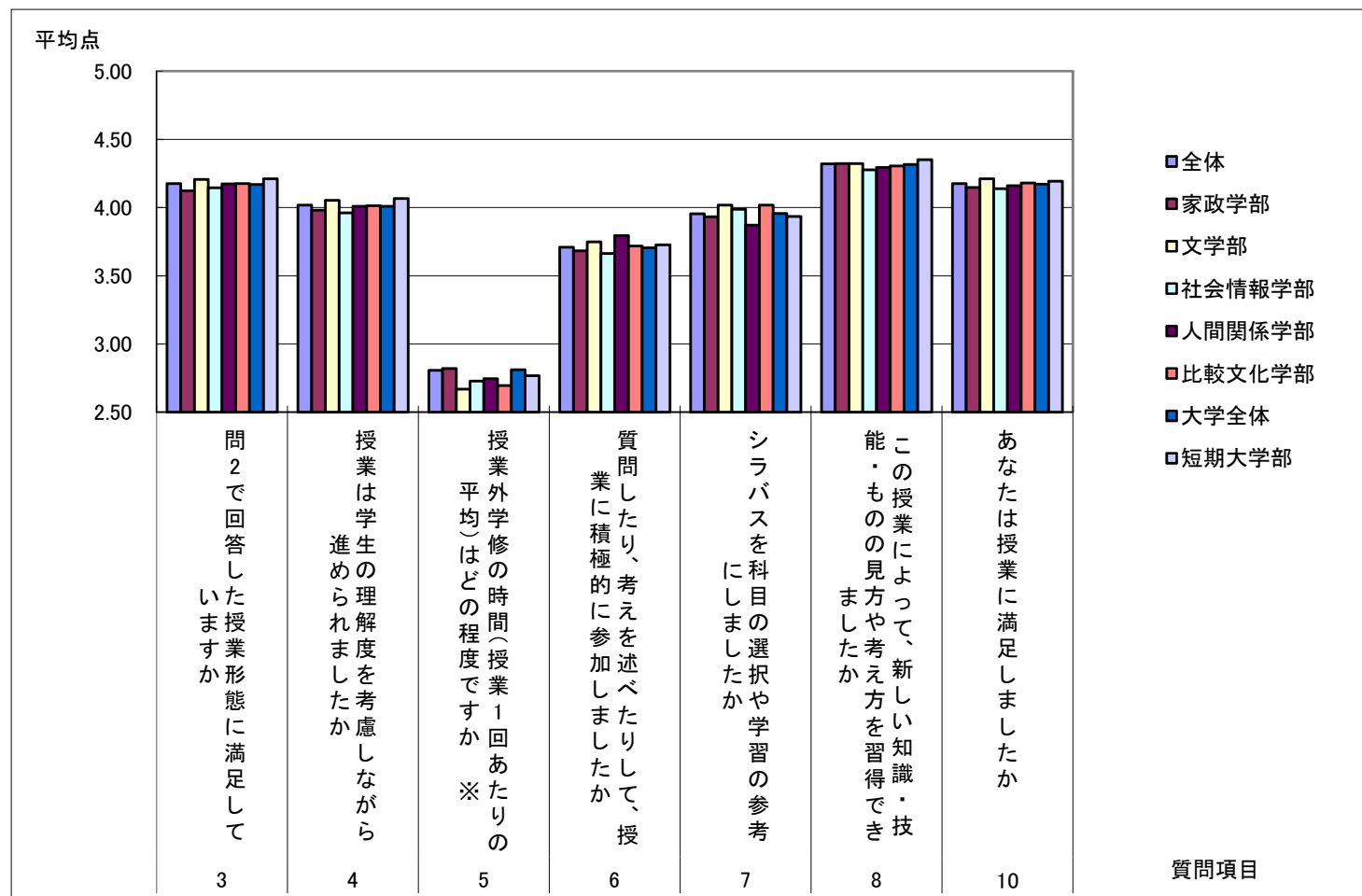
対象科目数	実施科目数	未実施科目数
1,469	1,457	12

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
履修者数	59,575	27,460	22,194	22,015	8,939	19,391	53,625	6,155
回答者数	23,399	11,238	9,419	8,739	3,007	8,042	20,459	3,029
回答率(%)	39.28	40.92	42.44	39.70	33.64	41.47	38.15	49.21

※全学共通科目等の人数は全ての該当学部にカウントされているため、[大学全体]の値と合致しない。

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.17	4.12	4.21	4.14	4.17	4.18	4.17	4.21
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.02	3.98	4.05	3.96	4.01	4.01	4.01	4.07
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.81	2.82	2.67	2.73	2.75	2.69	2.81	2.77
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.71	3.68	3.75	3.66	3.80	3.72	3.71	3.73
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.96	3.93	4.02	3.99	3.87	4.02	3.96	3.94
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.32	4.32	4.32	4.28	4.29	4.31	4.32	4.35
10 あなたは授業に満足しましたか	4.18	4.15	4.21	4.14	4.16	4.18	4.17	4.19

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	2,080	1,925	1,104	1,943	1,753	2,504	2,944	2,753	2,590	2,200	2,046
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
2,207	1,951	1,519	2,011	106	15	4,429	1,351	1,127	1,649	722	662

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.98	3.77	3.98	3.93	4.06	3.99	4.05	4.09	4.05	3.84	3.90
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.17	3.13	3.20	3.06	2.90	3.02	3.09	2.90	2.80	3.03	2.96
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.41	3.21	3.36	3.53	3.59	3.43	3.64	3.62	3.57	3.51	3.47
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.94	3.68	3.73	3.48	3.91	4.03	4.10	4.01	3.92	3.83	3.73
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.29	4.23	4.30	4.26	4.31	4.34	4.34	4.29	4.26	4.14	4.19

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.85	3.93	3.96	4.04	3.89	4.47	4.01	4.14	4.16	4.02	3.86	4.30
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.19	2.96	3.06	3.16	3.24	2.73	2.97	3.06	2.66	3.11	3.09	3.00
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.46	3.60	3.60	3.59	3.34	4.00	3.51	3.57	3.74	3.42	3.37	4.00
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.84	3.88	3.77	3.61	3.42	4.07	3.97	3.91	3.90	3.41	3.76	4.05
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.16	4.19	4.21	4.32	4.04	4.60	4.29	4.31	4.39	4.25	4.18	4.47

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
	1,506	1,080	769	917	753	1,626	1,869	1,542	1,525	1,326	1,007
大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
1,023	1,112	820	1,044	29	2	2,447	844	676	678	378	424

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.00	4.02	4.13	4.17	4.24	4.10	4.27	4.25	4.26	4.06	4.15
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.91	3.87	3.88	4.00	4.08	3.97	4.10	4.12	4.18	3.88	3.91
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.95	3.00	3.03	2.88	2.80	2.87	2.70	2.79	2.55	2.85	2.49
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.60	3.39	3.37	3.69	4.01	3.65	3.79	3.84	3.87	3.64	3.49
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.98	3.80	3.56	3.57	4.15	4.07	4.12	3.99	4.05	3.93	3.77
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.27	4.26	4.41	4.33	4.46	4.35	4.39	4.38	4.38	4.19	4.18
10 あなたは授業に満足しましたか	4.04	4.03	4.13	4.24	4.24	4.12	4.28	4.25	4.28	4.10	4.12

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

	大情	大社	大心	大福	大人福	大人介	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.25	4.18	4.18	4.16	4.14	3.50	4.22	4.15	4.28	4.12	4.18	4.43
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.02	3.93	4.06	4.05	4.07	4.00	4.04	4.07	4.17	3.89	3.93	4.35
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.02	2.73	2.76	2.75	2.83	1.00	2.86	2.88	2.51	3.01	2.59	2.74
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.68	3.80	3.75	3.83	3.50	3.50	3.73	3.67	3.68	3.66	3.56	4.16
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	4.14	4.03	3.90	3.67	3.95	3.00	4.05	4.01	3.84	3.62	3.89	4.49
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.29	4.22	4.37	4.31	4.29	4.50	4.29	4.36	4.39	4.24	4.29	4.52
10 あなたは授業に満足しましたか	4.19	4.11	4.17	4.21	4.21	4.00	4.18	4.17	4.22	4.10	4.12	4.42

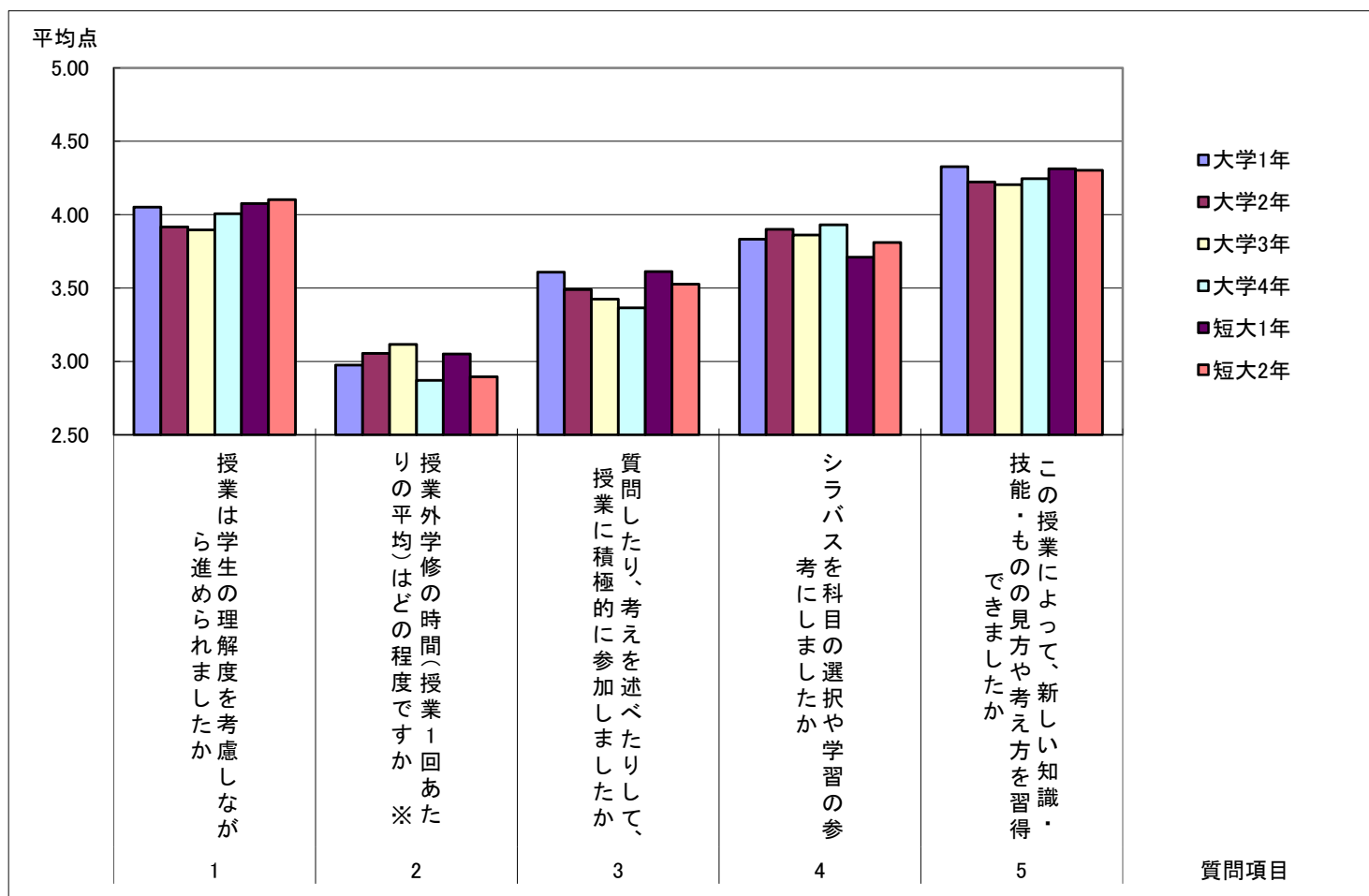
※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	14,240	11,514	8,461	2,015	3,378	2,153

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.05	3.92	3.90	4.01	4.08	4.10
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.97	3.06	3.12	2.87	3.05	2.90
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.61	3.49	3.42	3.37	3.61	3.53
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.83	3.90	3.86	3.93	3.71	3.81
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.33	4.22	4.21	4.25	4.31	4.30

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

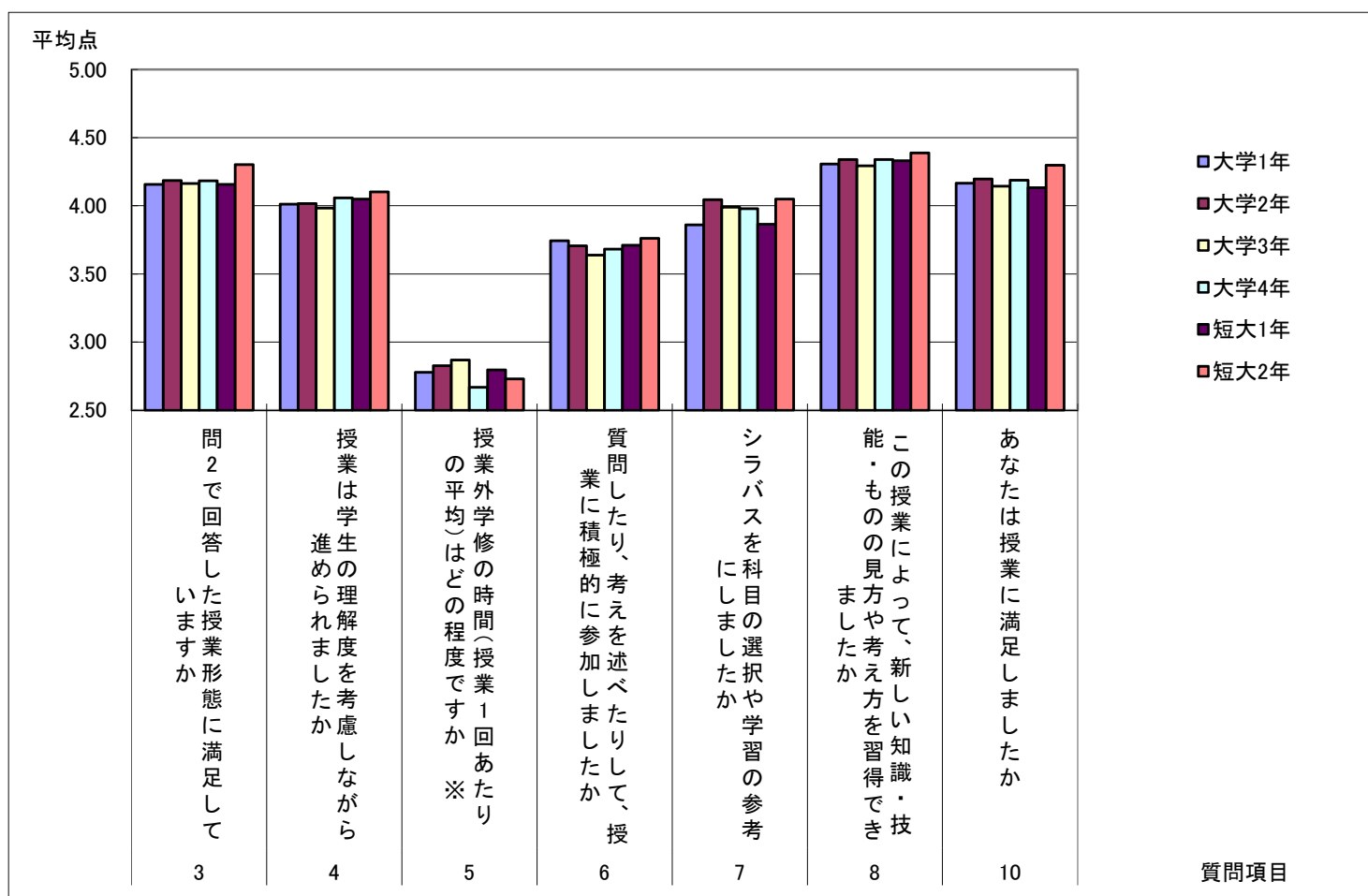


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	8,434	7,140	4,298	587	1,880	1,133

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.16	4.19	4.16	4.18	4.16	4.30
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.01	4.02	3.98	4.06	4.05	4.10
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.78	2.83	2.87	2.67	2.80	2.73
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.74	3.71	3.64	3.68	3.71	3.76
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.86	4.04	3.99	3.98	3.86	4.05
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.31	4.34	4.29	4.34	4.33	4.39
10 あなたは授業に満足しましたか	4.16	4.20	4.14	4.19	4.13	4.30

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

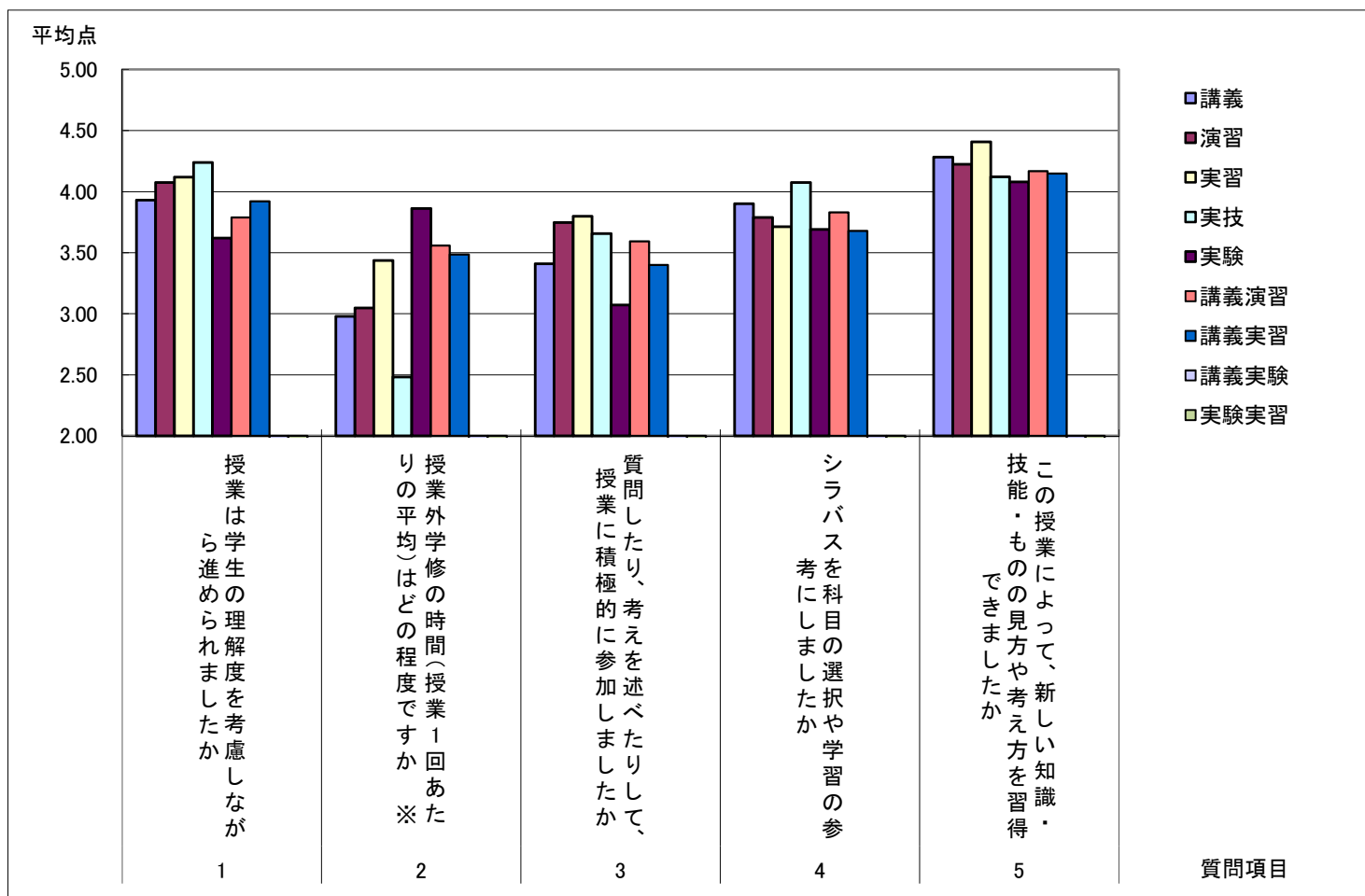


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	39,737	15,039	1,214	854	661	1,932	465	-	-
回答者数	23,709	9,573	694	586	391	1,044	233	-	-
回答率(%)	59.66	63.65	57.17	68.62	59.15	54.04	50.11	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.93	4.07	4.12	4.24	3.62	3.79	3.92	-	-
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.98	3.05	3.44	2.48	3.86	3.56	3.48	-	-
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.41	3.75	3.80	3.66	3.07	3.59	3.40	-	-
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.90	3.79	3.71	4.08	3.69	3.83	3.68	-	-
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.28	4.22	4.41	4.12	4.08	4.17	4.15	-	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

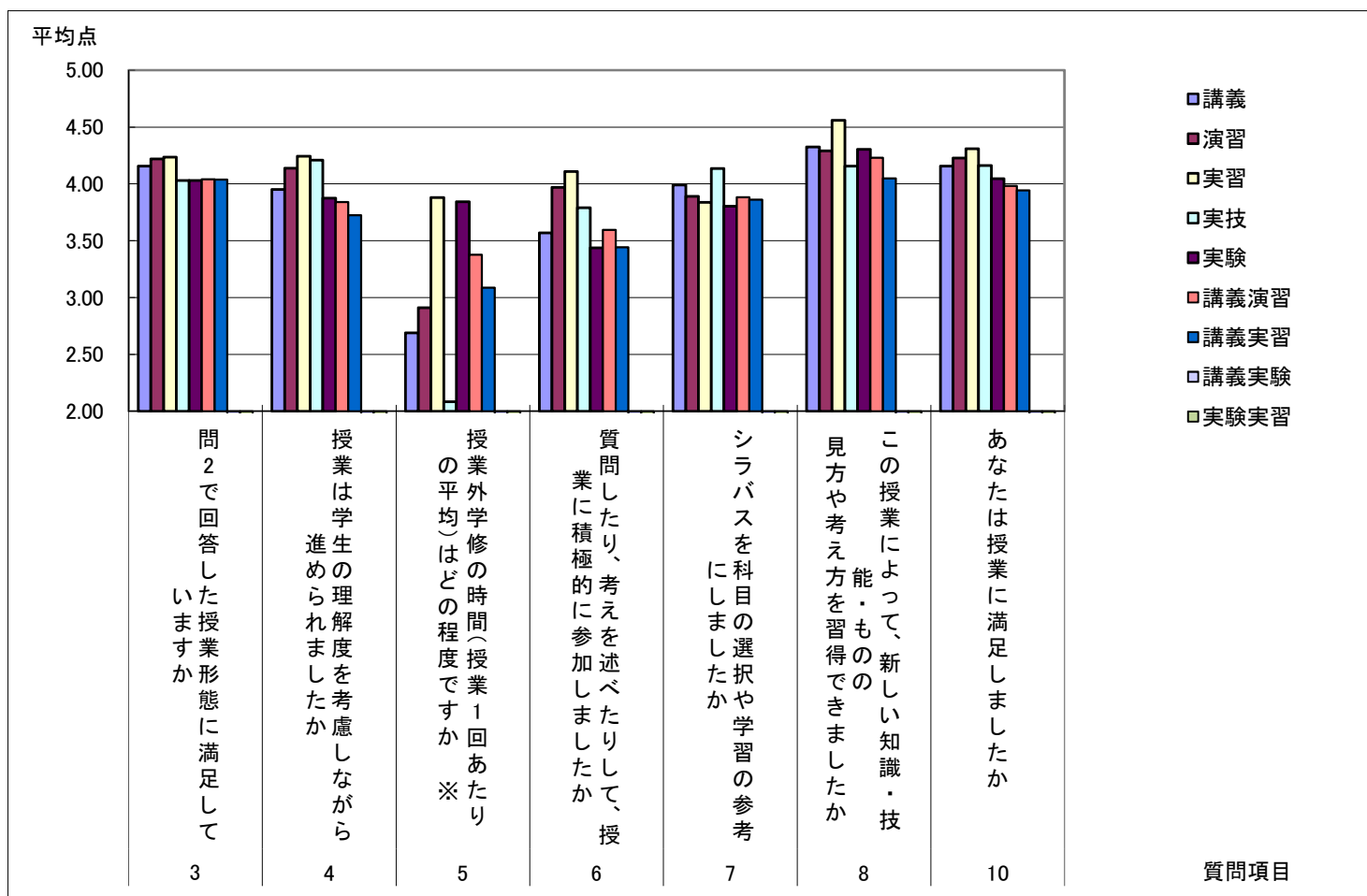


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	34,680	14,071	1,555	612	506	1,819	382	-	-
回答者数	13,248	5,423	611	279	199	591	108	-	-
回答率(%)	38.20	38.54	39.29	45.59	39.33	32.49	28.27	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.16	4.22	4.24	4.03	4.03	4.04	4.04	-	-
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.95	4.14	4.24	4.21	3.88	3.84	3.72	-	-
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)ほどの程度ですか ※	2.69	2.91	3.88	2.08	3.84	3.38	3.09	-	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.57	3.97	4.11	3.79	3.44	3.60	3.44	-	-
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.99	3.89	3.84	4.14	3.80	3.88	3.86	-	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.32	4.29	4.56	4.16	4.30	4.23	4.05	-	-
10 あなたは授業に満足しましたか	4.16	4.23	4.31	4.16	4.05	3.98	3.94	-	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

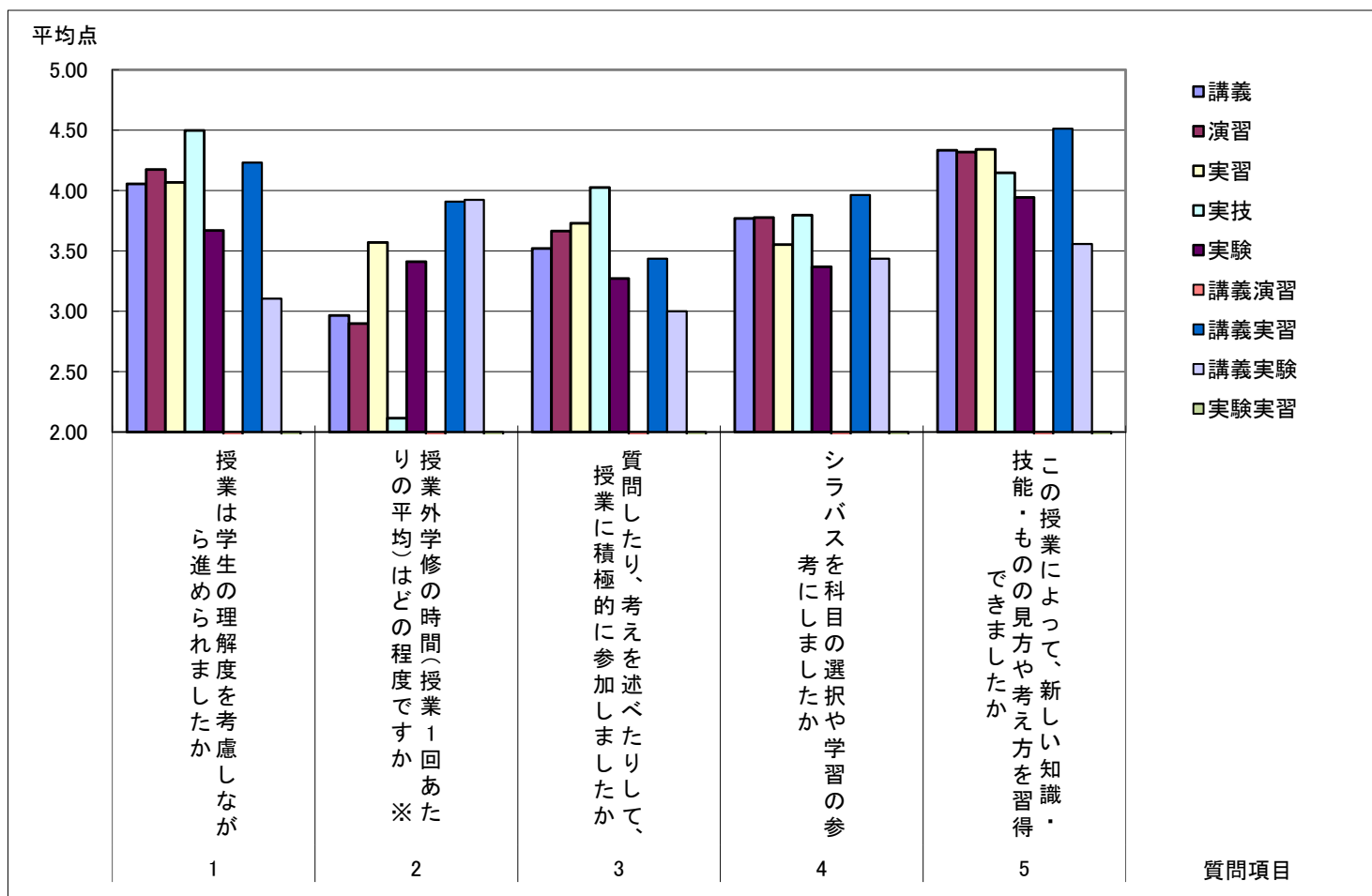


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	4,217	1,944	360	212	229	-	121	63	-
回答者数	3,283	1,507	303	173	190	-	88	52	-
回答率(%)	77.85	77.52	84.17	81.60	82.97	-	72.73	82.54	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.06	4.17	4.07	4.50	3.67	-	4.23	3.10	-
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.97	2.90	3.57	2.12	3.41	-	3.91	3.92	-
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.52	3.66	3.73	4.02	3.27	-	3.44	3.00	-
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.77	3.78	3.55	3.80	3.37	-	3.96	3.43	-
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.33	4.32	4.34	4.15	3.94	-	4.51	3.56	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

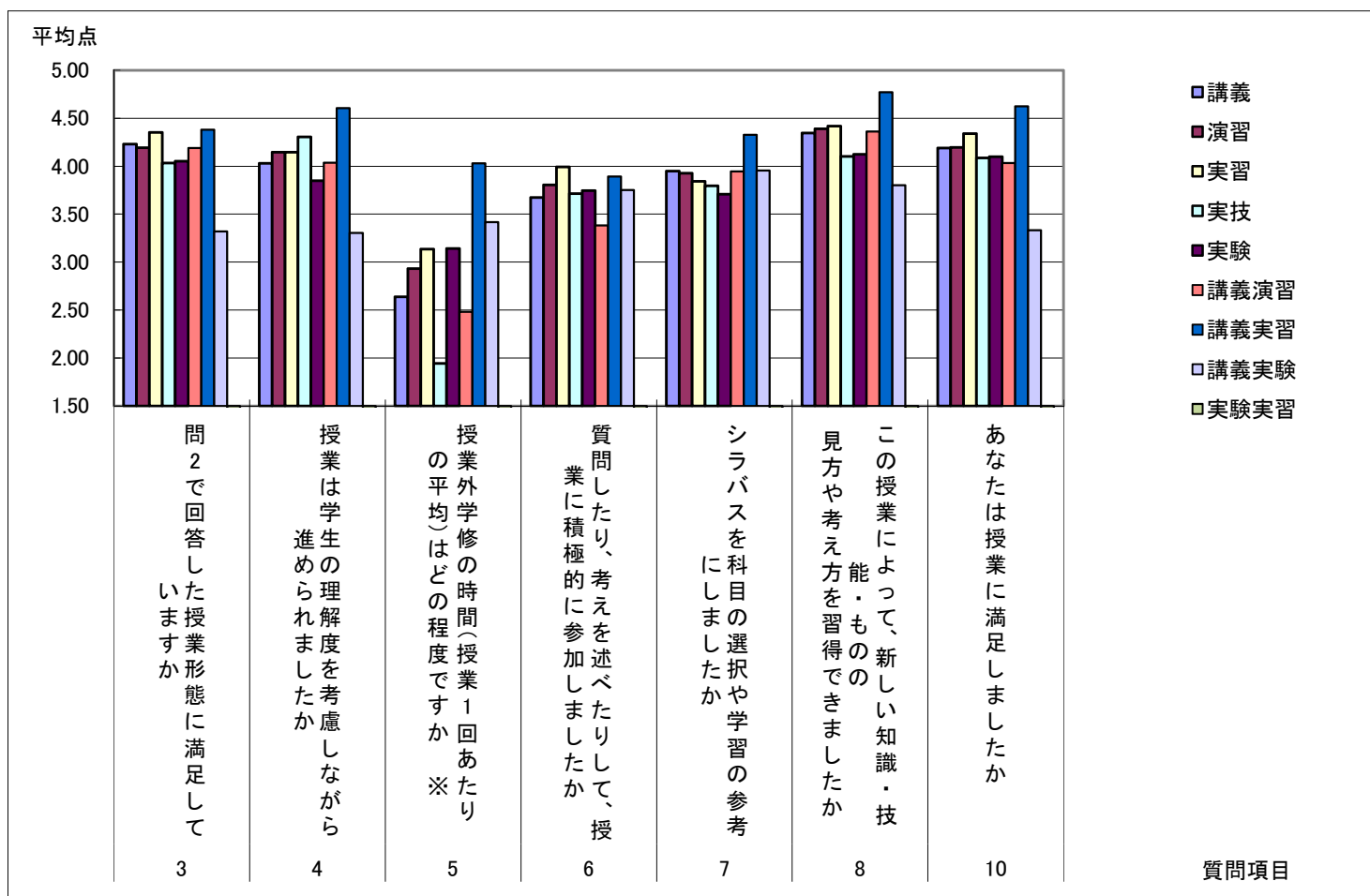


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	3,805	1,249	377	101	295	143	130	55	-
回答者数	1,906	645	155	60	113	59	66	25	-
回答率(%)	50.09	51.64	41.11	59.41	38.31	41.26	50.77	45.45	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.23	4.19	4.35	4.03	4.05	4.19	4.38	3.32	-
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.03	4.15	4.15	4.31	3.85	4.04	4.61	3.30	-
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)ほどの程度ですか ※	2.64	2.93	3.14	1.94	3.14	2.48	4.03	3.42	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.67	3.80	3.99	3.71	3.74	3.38	3.89	3.75	-
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.95	3.93	3.84	3.80	3.71	3.95	4.33	3.95	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.35	4.39	4.42	4.10	4.13	4.36	4.77	3.80	-
10 あなたは授業に満足しましたか	4.19	4.20	4.34	4.08	4.10	4.03	4.63	3.33	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

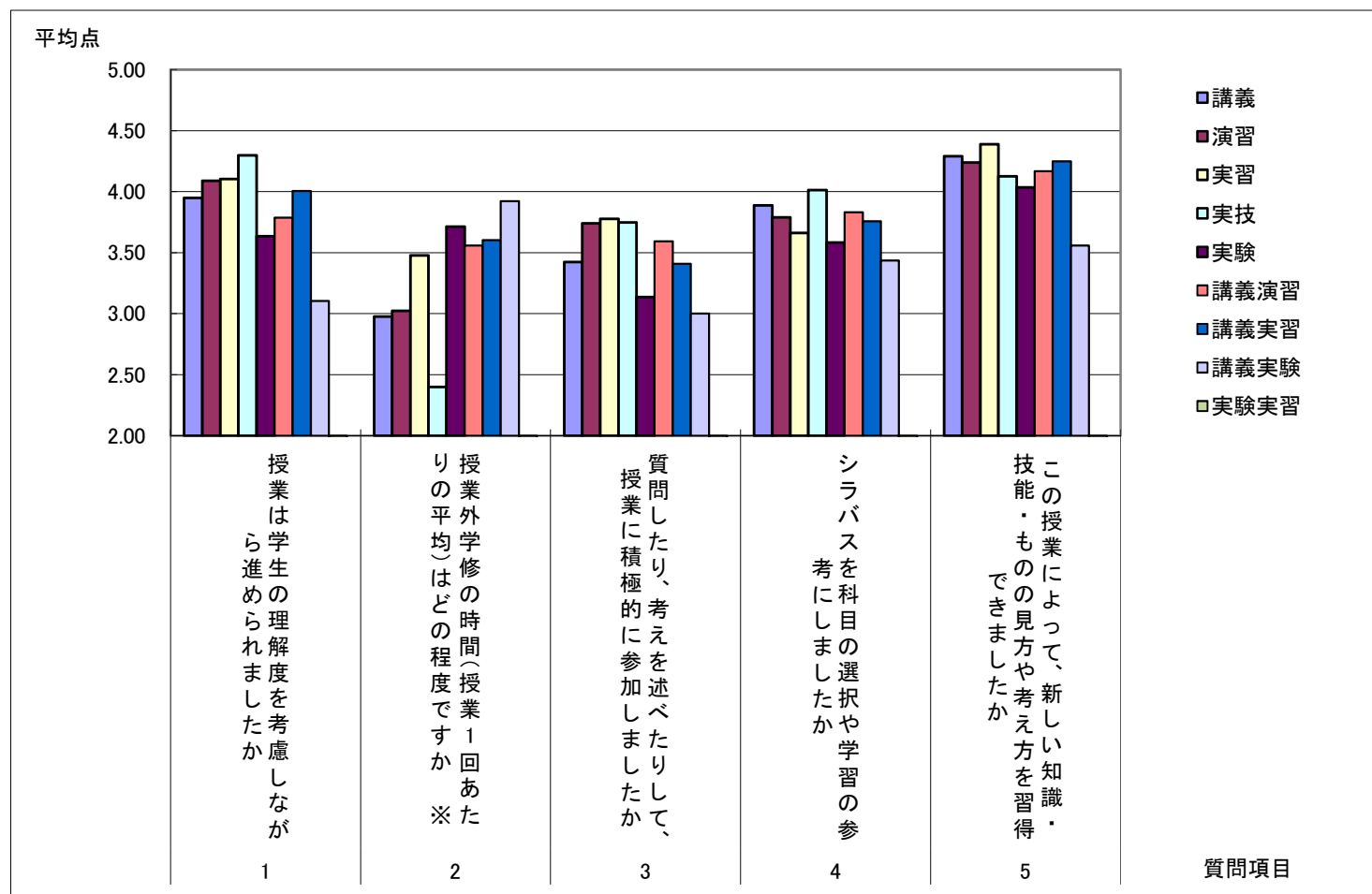


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	43,669	16,910	1,574	1,066	890	1,932	586	63	-
回答者数	26,810	11,032	997	759	581	1,044	321	52	-
回答率(%)	61.39	65.24	63.34	71.20	65.28	54.04	54.78	82.54	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.95	4.09	4.10	4.30	3.64	3.79	4.01	3.10	-
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.98	3.02	3.48	2.40	3.71	3.56	3.60	3.92	-
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.42	3.74	3.78	3.75	3.14	3.59	3.41	3.00	-
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.89	3.79	3.66	4.01	3.58	3.83	3.76	3.43	-
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.29	4.24	4.39	4.13	4.03	4.17	4.25	3.56	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

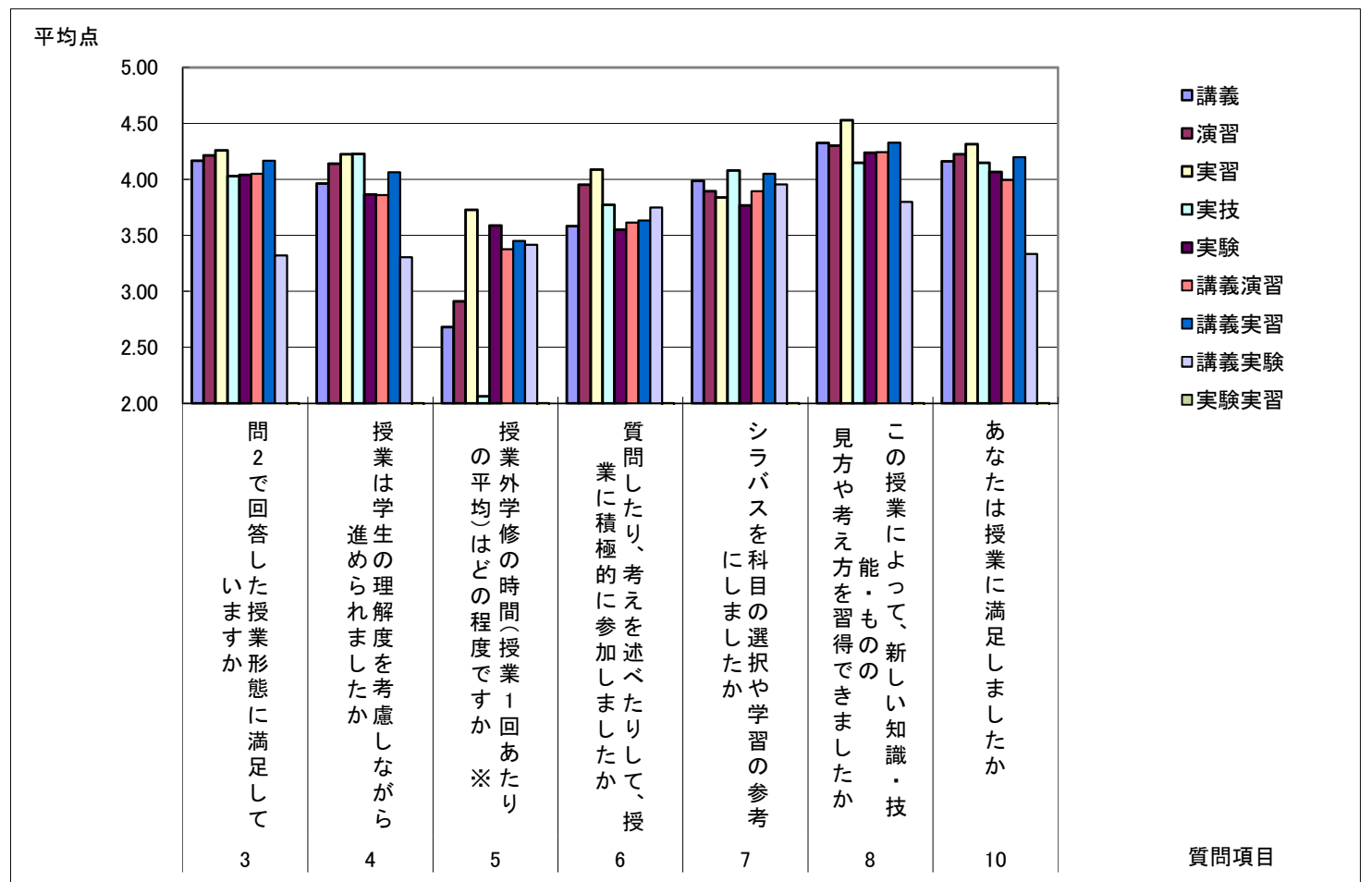


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	38,377	15,320	1,932	713	801	1,865	512	55	-
回答者数	15,104	6,068	766	339	312	611	174	25	-
回答率(%)	39.36	39.61	39.65	47.55	38.95	32.76	33.98	45.45	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.17	4.22	4.26	4.03	4.04	4.05	4.17	3.32	-
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.96	4.14	4.22	4.23	3.87	3.86	4.06	3.30	-
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)ほどの程度ですか ※	2.68	2.91	3.73	2.06	3.59	3.37	3.45	3.42	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.58	3.95	4.09	3.77	3.55	3.61	3.63	3.75	-
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.99	3.89	3.84	4.08	3.77	3.89	4.05	3.95	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.33	4.30	4.53	4.15	4.24	4.24	4.33	3.80	-
10 あなたは授業に満足しましたか	4.16	4.22	4.32	4.15	4.07	4.00	4.20	3.33	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

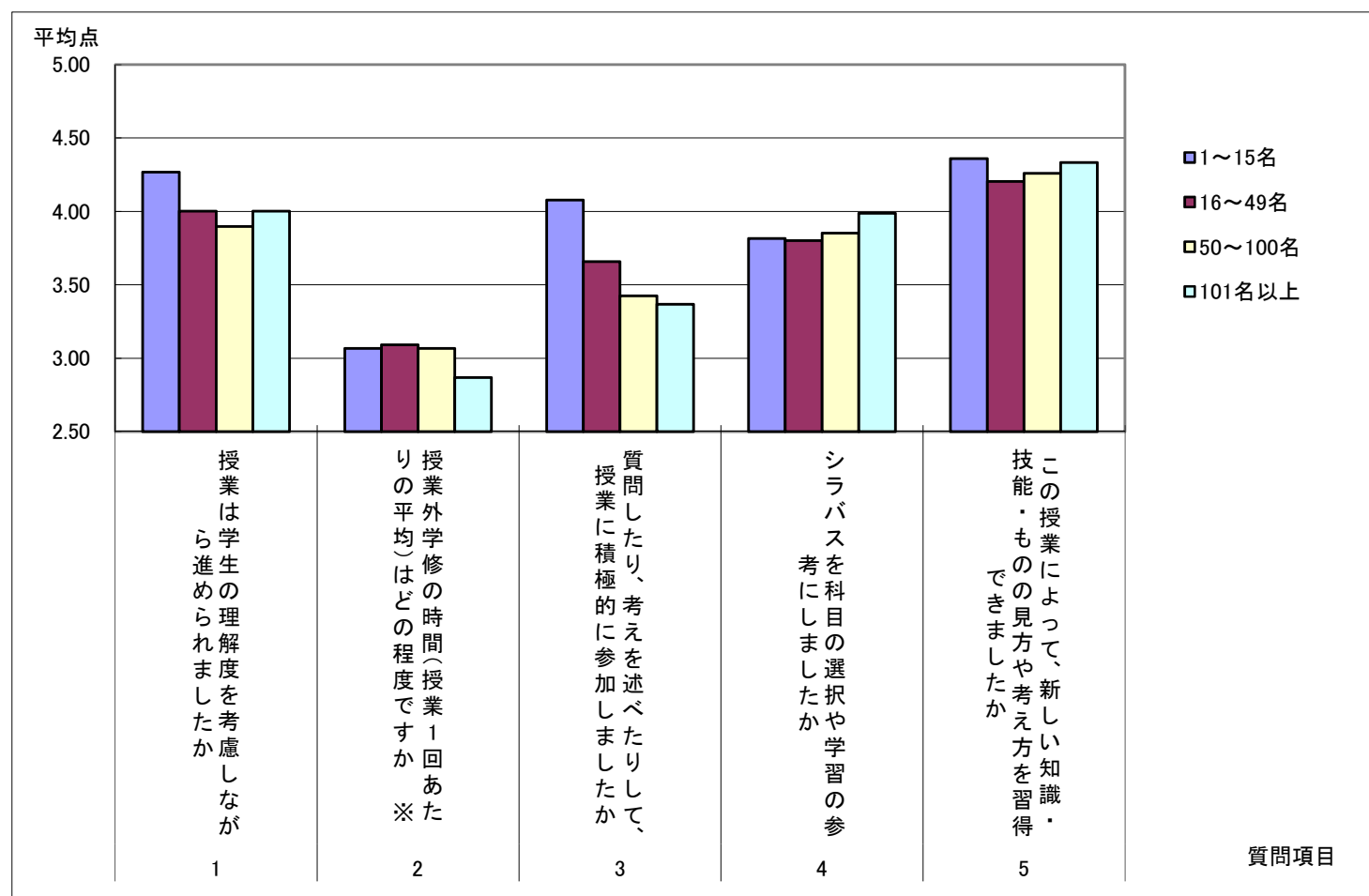


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,964	19,512	23,840	14,586
回答者数	1,158	12,351	14,117	8,604
回答率(%)	58.96	63.30	59.22	58.99

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.27	4.00	3.90	4.00
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.07	3.09	3.07	2.87
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	4.08	3.66	3.42	3.37
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.81	3.80	3.85	3.99
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.36	4.20	4.26	4.33

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

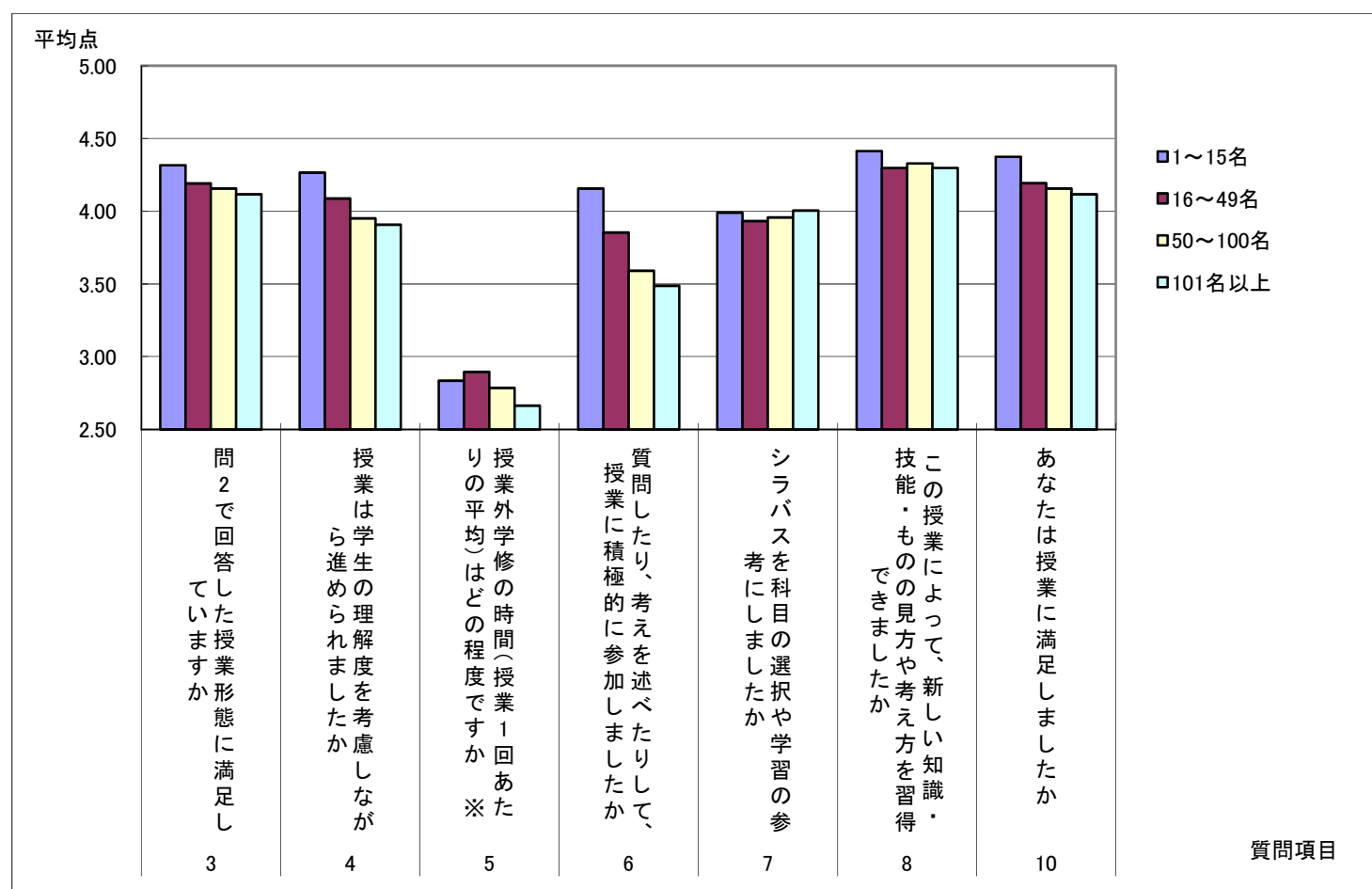


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,025	20,678	22,179	8,743
回答者数	749	7,866	8,347	3,483
回答率(%)	36.99	38.04	37.63	39.84

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.32	4.19	4.16	4.12
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.27	4.09	3.95	3.91
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.84	2.90	2.79	2.66
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	4.16	3.85	3.59	3.49
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.99	3.93	3.96	4.01
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.41	4.30	4.33	4.30
10 あなたは授業に満足しましたか	4.37	4.19	4.16	4.12

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

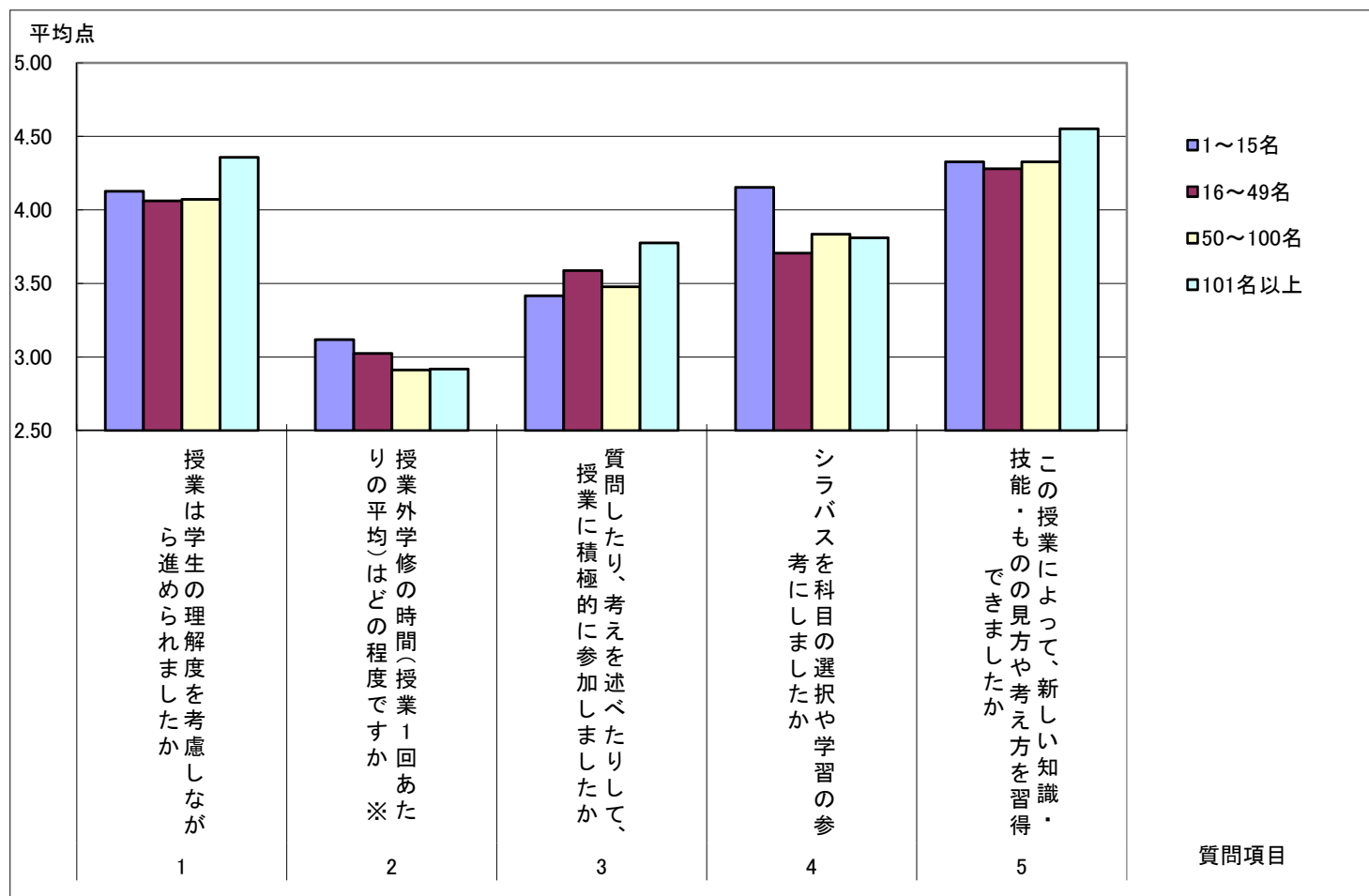


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	89	4,991	1,601	465
回答者数	59	3,985	1,206	346
回答率(%)	66.29	79.84	75.33	74.41

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.13	4.06	4.07	4.36
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.12	3.02	2.91	2.92
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.42	3.59	3.48	3.78
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	4.15	3.71	3.83	3.81
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.33	4.28	4.33	4.55

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

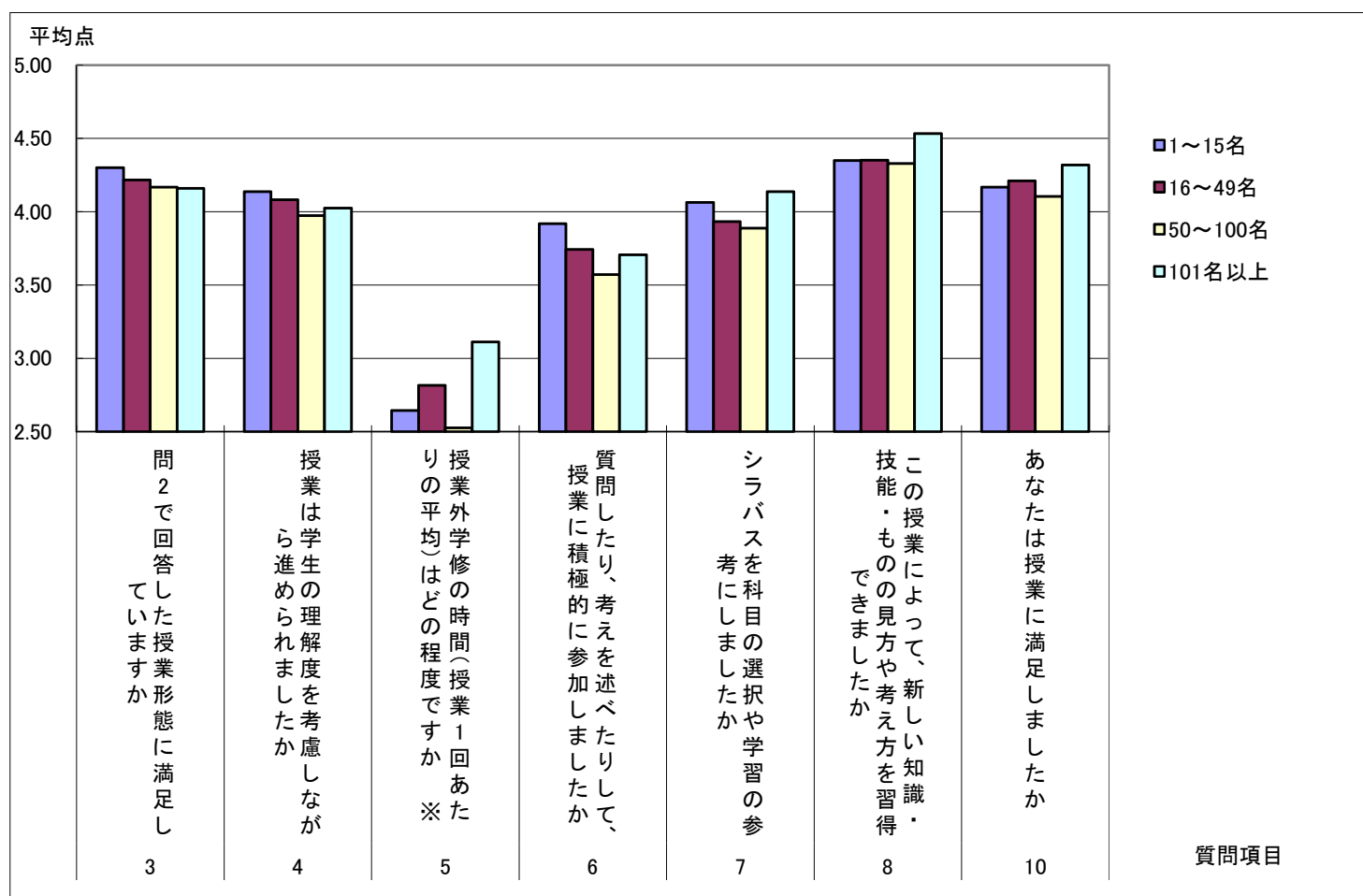


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	258	4,825	968	104
回答者数	145	2,359	480	45
回答率(%)	56.20	48.89	49.59	43.27

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.30	4.22	4.17	4.16
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.14	4.08	3.97	4.02
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.64	2.82	2.53	3.11
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.92	3.74	3.57	3.71
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	4.06	3.93	3.89	4.14
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.35	4.35	4.33	4.53
10 あなたは授業に満足しましたか	4.17	4.21	4.11	4.32

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

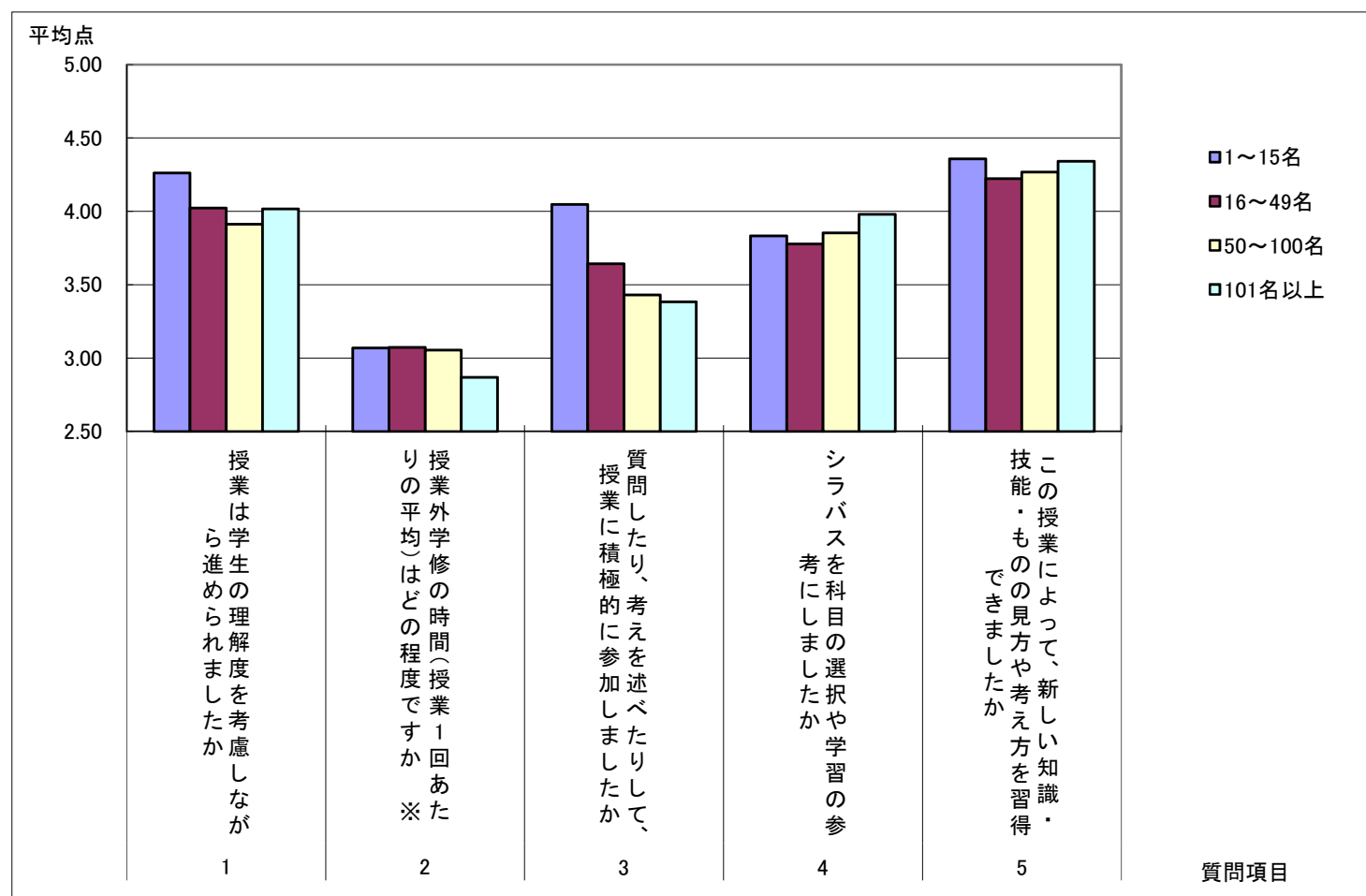


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,053	24,308	25,278	15,051
回答者数	1,217	16,205	15,224	8,950
回答率(%)	59.28	66.67	60.23	59.46

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.26	4.02	3.91	4.02
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.07	3.07	3.05	2.87
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	4.05	3.64	3.43	3.38
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.83	3.78	3.85	3.98
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.36	4.22	4.27	4.34

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

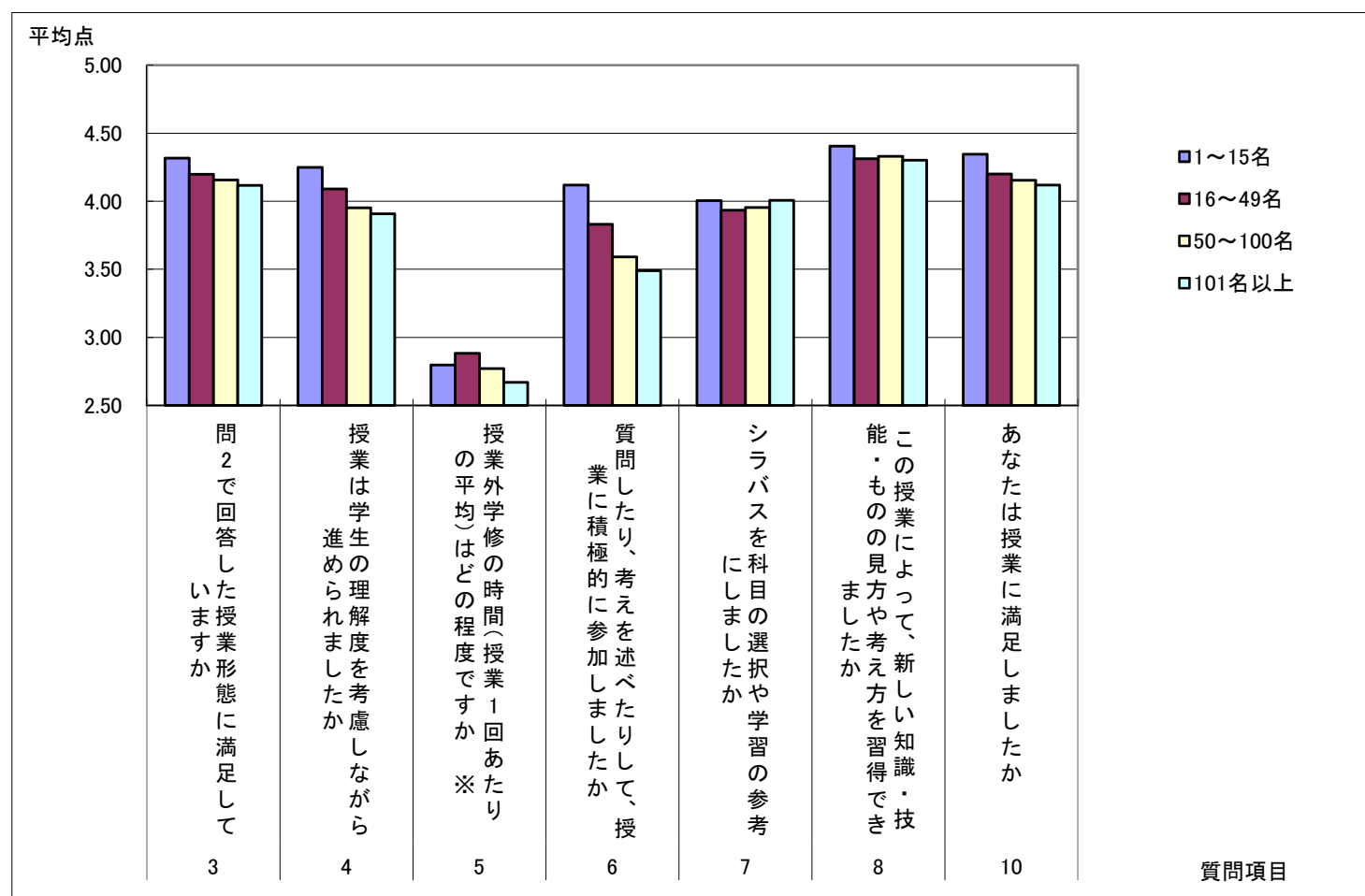


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,273	25,308	23,147	8,847
回答者数	887	10,143	8,827	3,528
回答率(%)	39.02	40.08	38.13	39.88

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.32	4.20	4.16	4.12
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.25	4.09	3.95	3.91
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.80	2.88	2.77	2.67
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	4.12	3.83	3.59	3.49
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	4.00	3.93	3.95	4.01
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.40	4.31	4.33	4.30
10 あなたは授業に満足しましたか	4.35	4.20	4.15	4.12

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



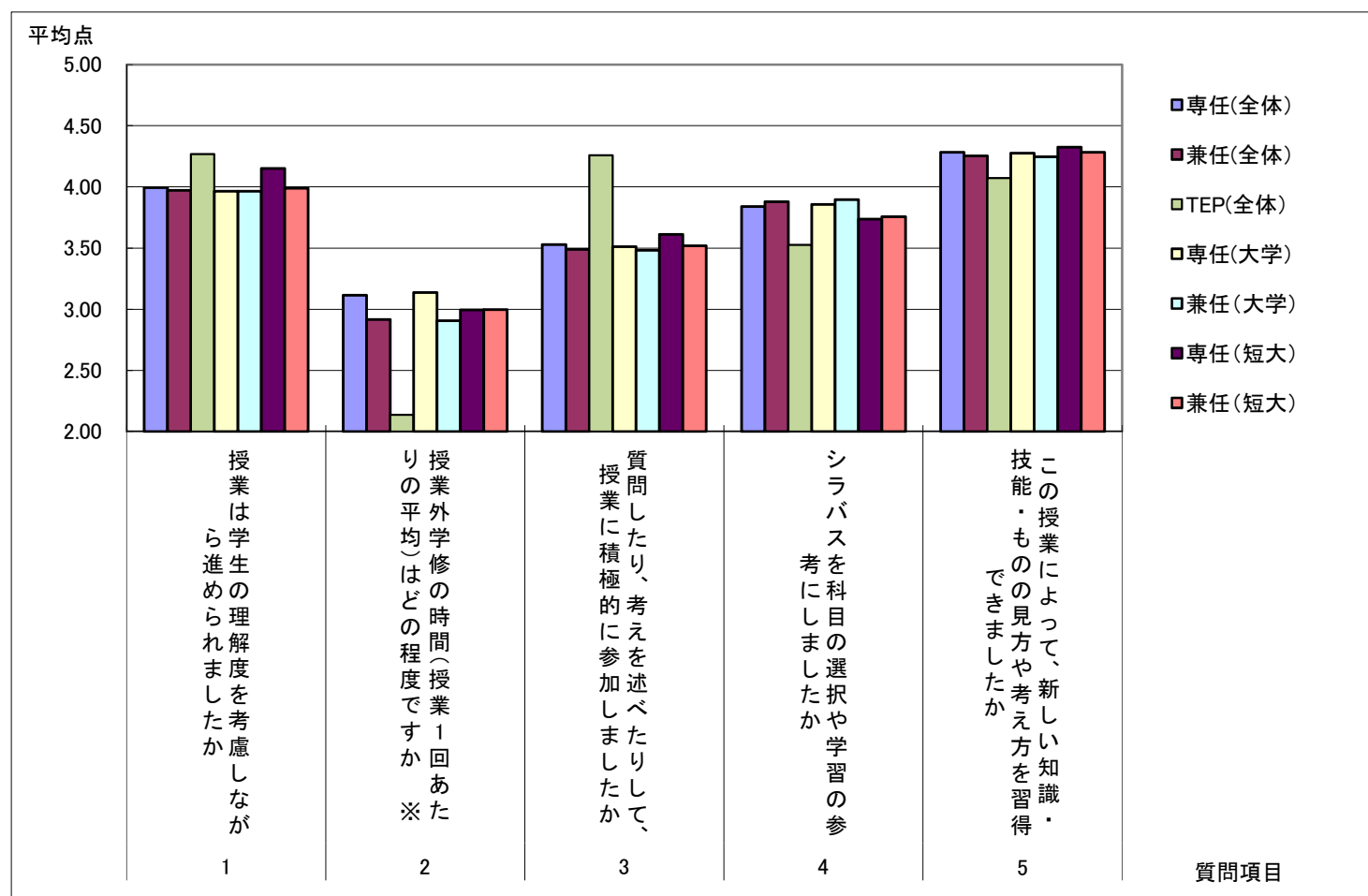
2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP※(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	34,858	29,781	623	30,871	26,980	4,090	3,056
回答者数	21,473	18,852	365	18,297	16,662	3,238	2,358
回答率(%)	61.60	63.30	58.59	59.27	61.76	79.17	77.16

※人間関係学部で実施しているネイティブスピーカー(外部委託)による英語科目

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	3.99	3.97	4.27	3.96	3.97	4.15	3.99
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	3.11	2.92	2.13	3.14	2.91	2.99	3.00
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.53	3.49	4.26	3.51	3.48	3.61	3.52
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.84	3.88	3.53	3.86	3.90	3.74	3.76
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.28	4.25	4.07	4.28	4.25	4.32	4.28

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



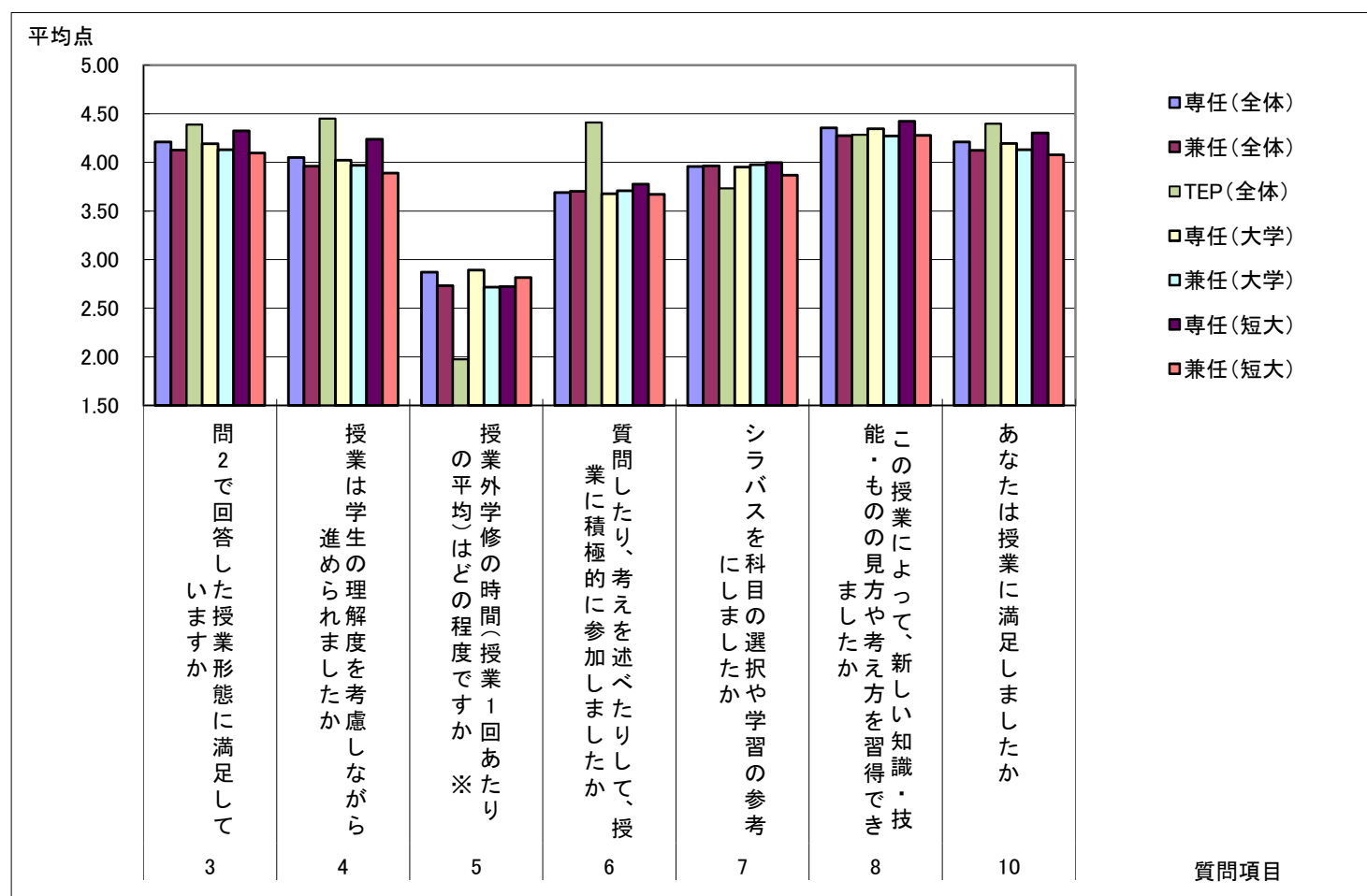
2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP※(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	31,852	25,419	600	28,829	22,492	3,072	3,083
回答者数	12,272	10,369	204	10,752	8,949	1,541	1,488
回答率(%)	38.53	40.79	34.00	37.30	39.79	50.16	48.26

※人間関係学部で実施しているネイティブスピーカー(外部委託)による英語科目

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.21	4.13	4.39	4.19	4.13	4.32	4.10
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.05	3.96	4.45	4.02	3.97	4.24	3.89
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.87	2.73	1.98	2.89	2.72	2.72	2.81
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.69	3.70	4.41	3.68	3.71	3.78	3.67
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.96	3.96	3.73	3.95	3.98	4.00	3.87
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.36	4.27	4.28	4.35	4.27	4.42	4.28
10 あなたは授業に満足しましたか	4.21	4.13	4.40	4.20	4.13	4.30	4.08

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

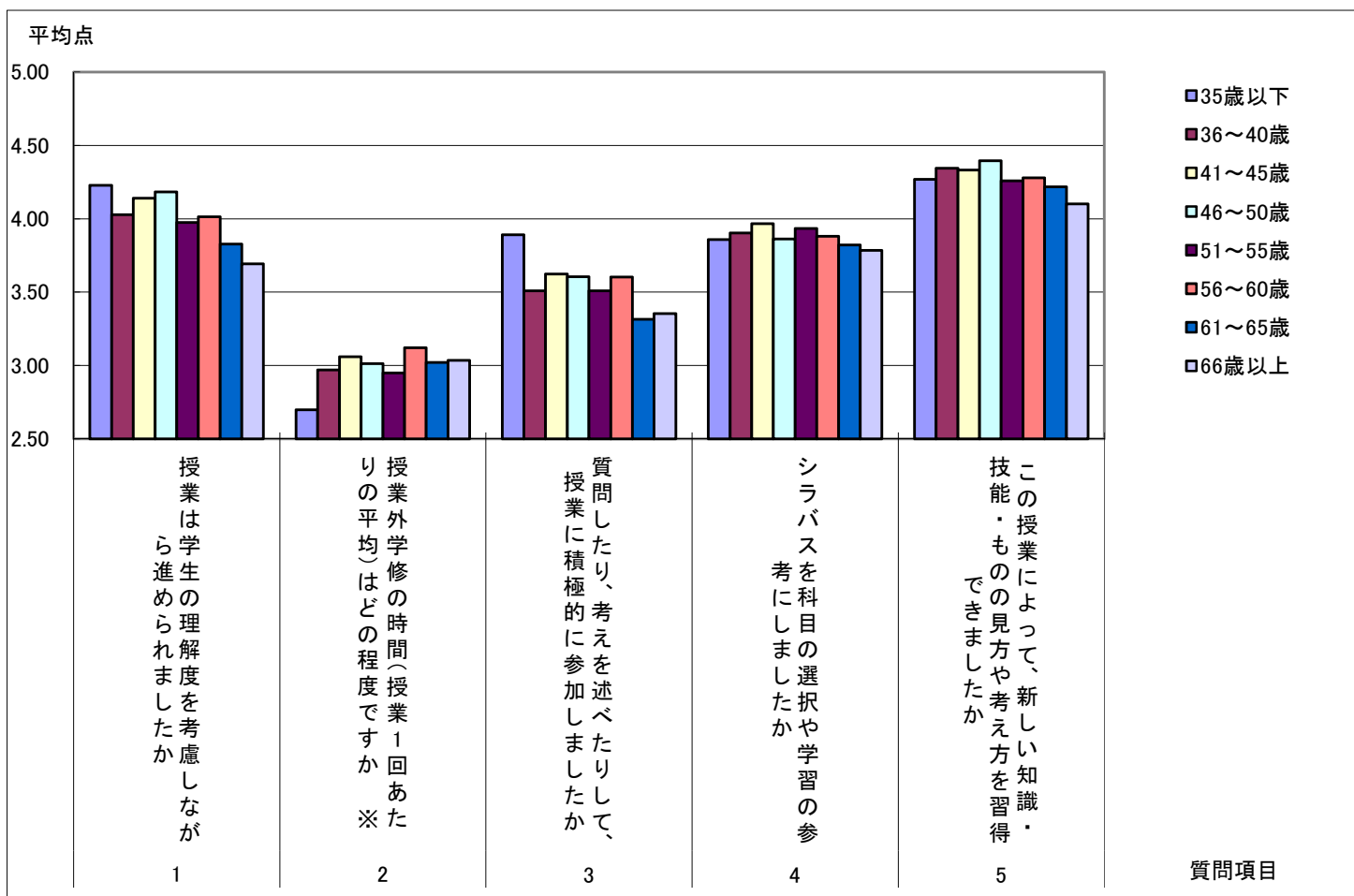


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,791	3,615	7,253	7,682	9,758	8,946	9,218	10,211
回答者数	1,110	2,130	4,430	4,778	5,690	5,327	5,484	6,375
回答率(%)	61.98	58.92	61.08	62.20	58.31	59.55	59.49	62.43

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.23	4.03	4.14	4.18	3.98	4.01	3.83	3.69
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.70	2.97	3.06	3.01	2.95	3.12	3.02	3.04
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.89	3.51	3.62	3.60	3.51	3.60	3.31	3.35
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.86	3.90	3.97	3.86	3.93	3.88	3.82	3.79
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.27	4.34	4.33	4.40	4.26	4.28	4.22	4.10

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

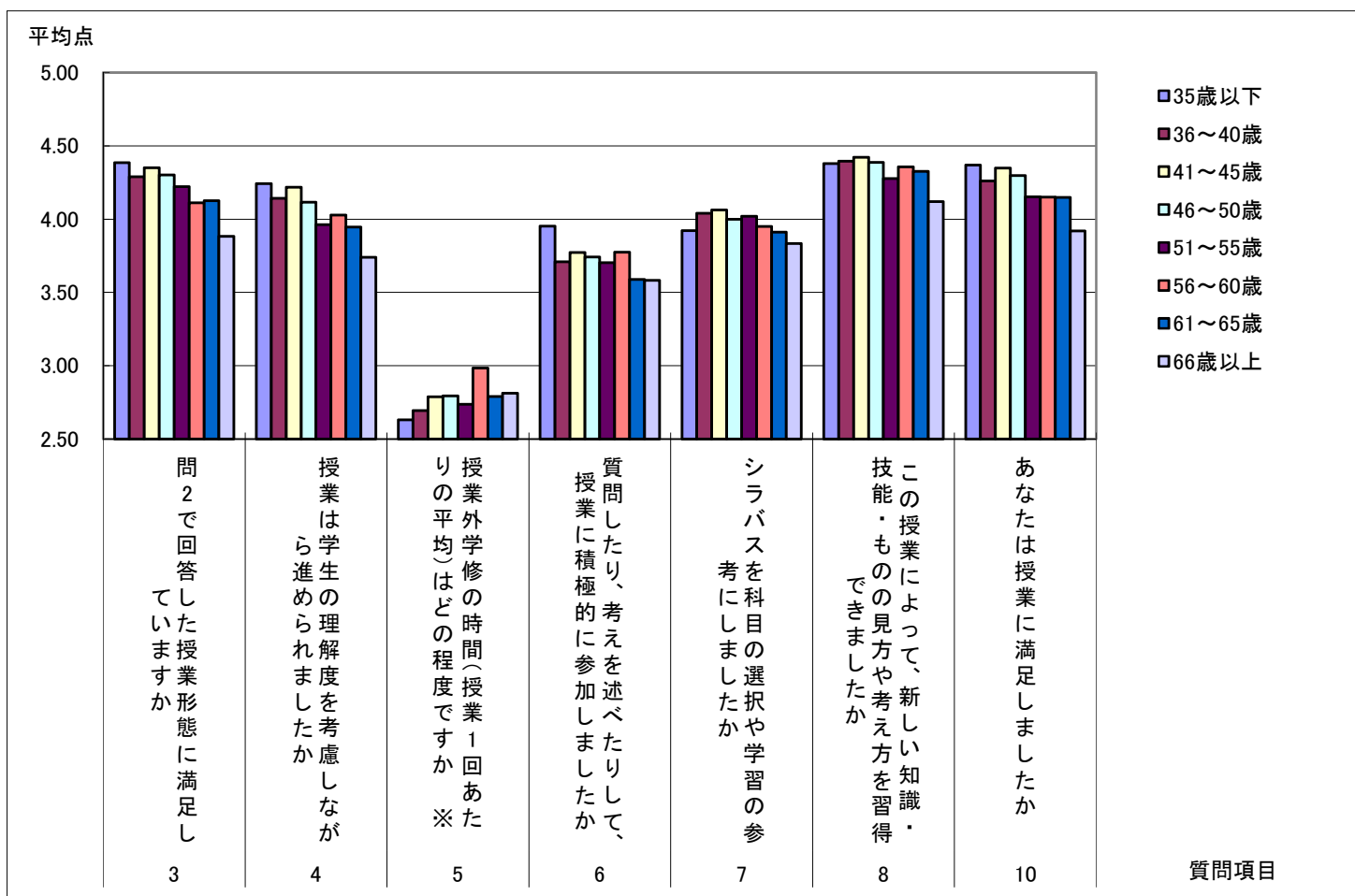


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,912	3,223	6,435	6,606	8,748	7,933	8,042	9,022
回答者数	725	1,229	2,463	2,548	3,257	3,018	3,167	3,498
回答率(%)	37.92	38.13	38.28	38.57	37.23	38.04	39.38	38.77

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.38	4.29	4.35	4.30	4.22	4.11	4.13	3.88
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.24	4.14	4.22	4.12	3.96	4.03	3.95	3.74
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.63	2.69	2.79	2.79	2.74	2.98	2.79	2.81
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.95	3.71	3.77	3.74	3.70	3.77	3.59	3.58
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.92	4.04	4.06	4.00	4.02	3.95	3.91	3.83
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.38	4.40	4.42	4.39	4.28	4.36	4.33	4.12
10 あなたは授業に満足しましたか	4.37	4.26	4.35	4.30	4.15	4.15	4.15	3.92

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

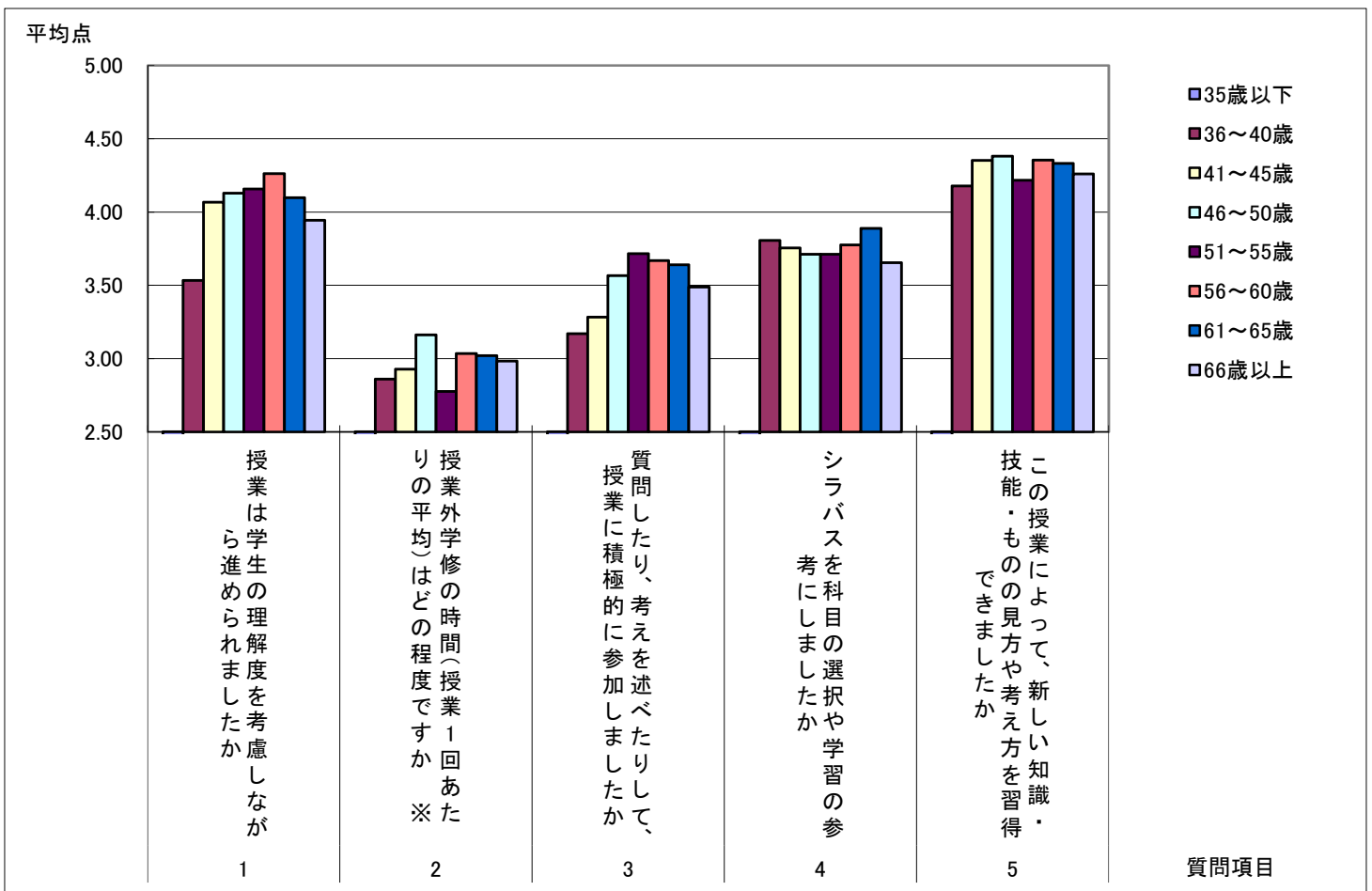


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	-	134	466	1,120	922	1,094	1,406	2,004
回答者数	-	96	325	907	759	861	1,121	1,527
回答率(%)	-	71.64	69.74	80.98	82.32	78.70	79.73	76.20

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	-	3.53	4.07	4.13	4.16	4.26	4.10	3.94
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	-	2.86	2.93	3.16	2.78	3.04	3.02	2.98
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	-	3.17	3.28	3.57	3.72	3.67	3.64	3.49
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	-	3.81	3.76	3.71	3.71	3.78	3.89	3.65
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	-	4.18	4.35	4.38	4.22	4.35	4.33	4.26

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

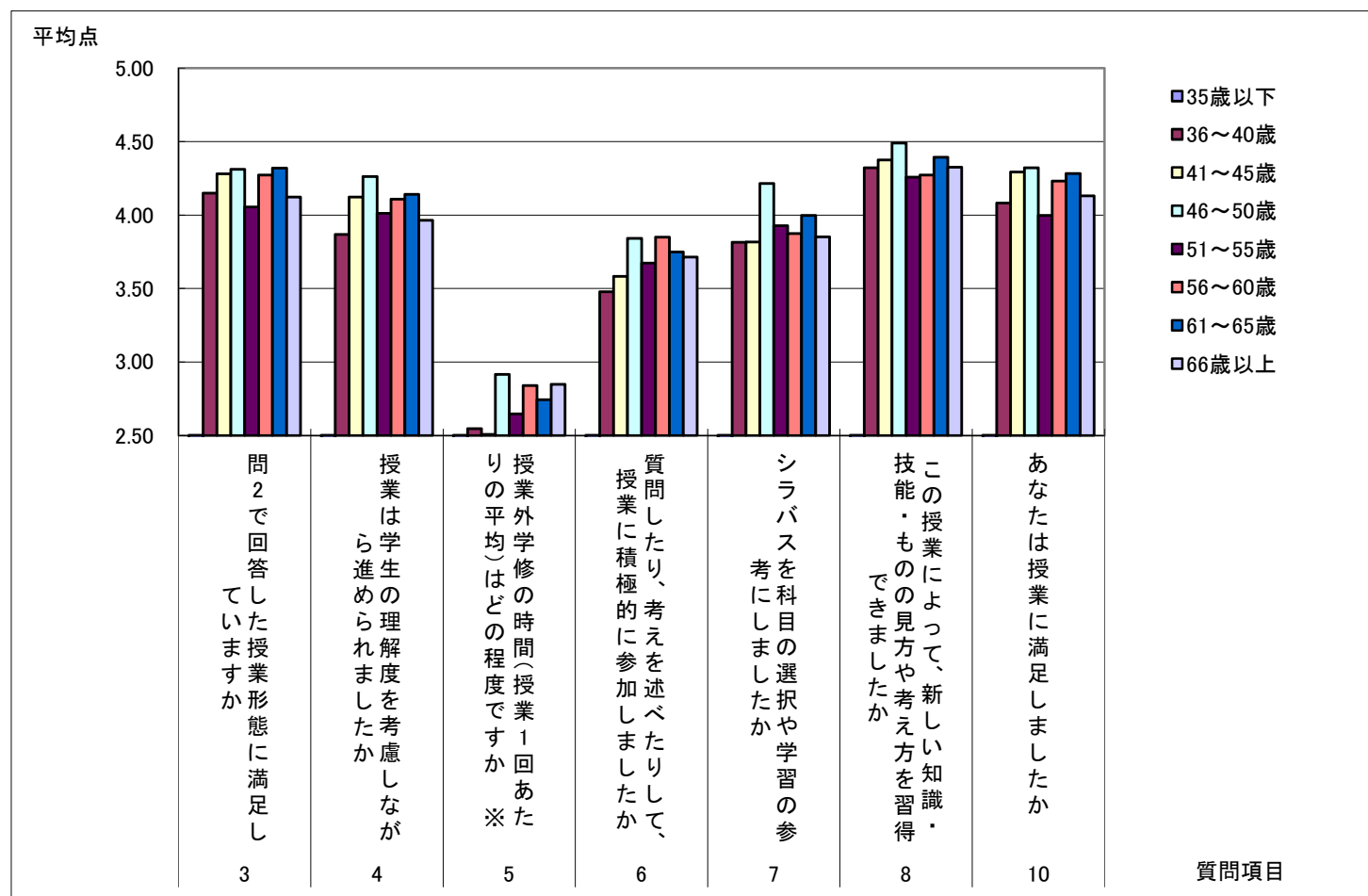


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	-	298	502	740	701	756	1,313	1,845
回答者数	-	148	223	353	351	337	699	918
回答率(%)	-	49.66	44.42	47.70	50.07	44.58	53.24	49.76

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	-	4.15	4.28	4.31	4.05	4.27	4.32	4.12
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	-	3.87	4.12	4.26	4.01	4.11	4.14	3.96
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	-	2.55	2.51	2.91	2.65	2.84	2.74	2.85
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	-	3.48	3.58	3.84	3.67	3.85	3.75	3.71
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	-	3.81	3.82	4.21	3.93	3.87	4.00	3.85
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	-	4.32	4.37	4.49	4.26	4.27	4.39	4.33
10 あなたは授業に満足しましたか	-	4.08	4.29	4.32	4.00	4.23	4.28	4.13

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

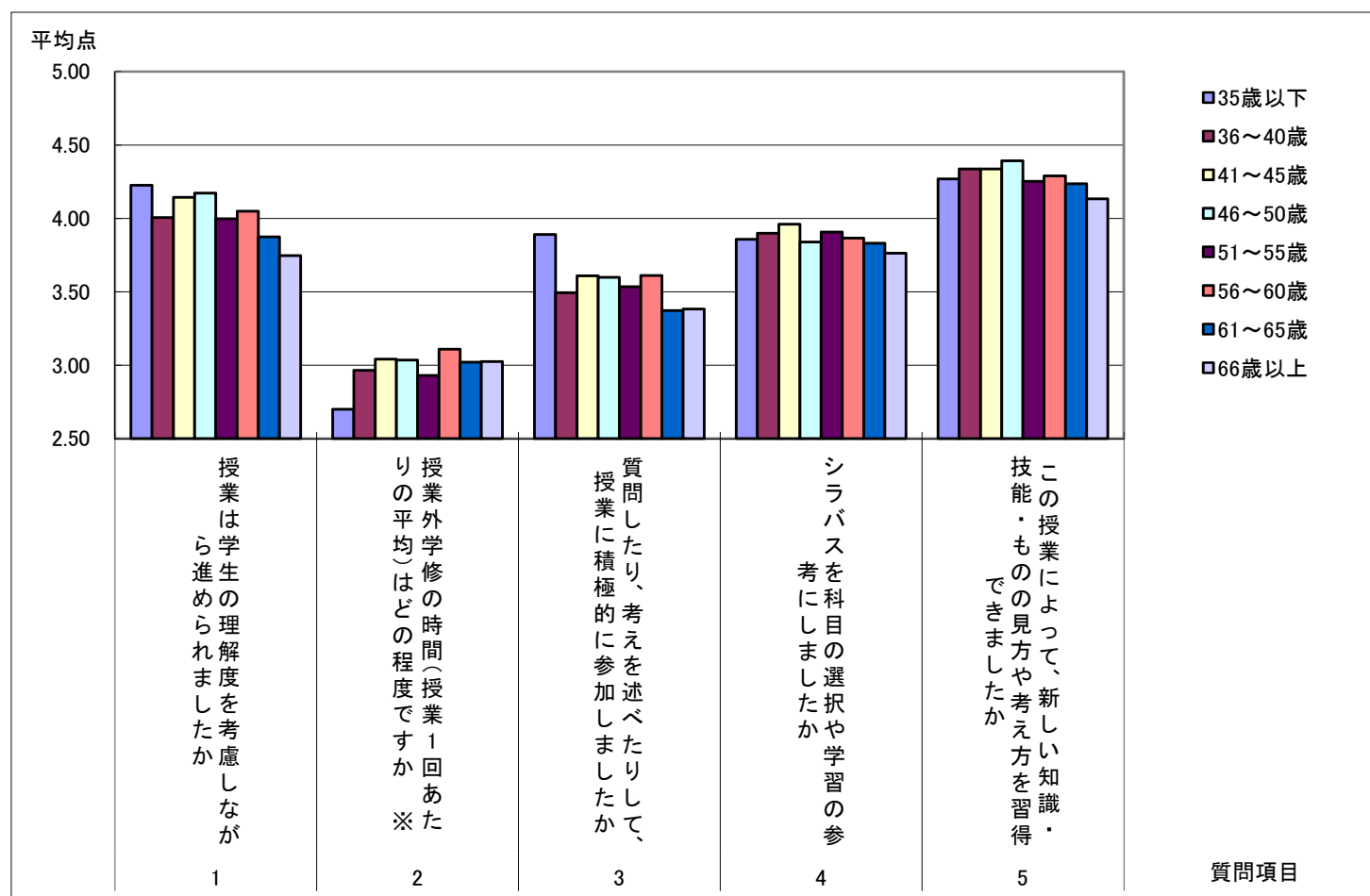


2020年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,791	3,749	7,583	8,802	10,680	10,040	10,592	12,025
回答者数	1,110	2,226	4,670	5,685	6,449	6,188	6,583	7,779
回答率(%)	61.98	59.38	61.59	64.59	60.38	61.63	62.15	64.69

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
1 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.23	4.01	4.14	4.17	4.00	4.05	3.88	3.75
2 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.70	2.96	3.04	3.04	2.93	3.11	3.02	3.03
3 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.89	3.49	3.61	3.60	3.53	3.61	3.37	3.38
4 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.86	3.90	3.96	3.84	3.91	3.87	3.83	3.76
5 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.27	4.34	4.34	4.39	4.25	4.29	4.24	4.13

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

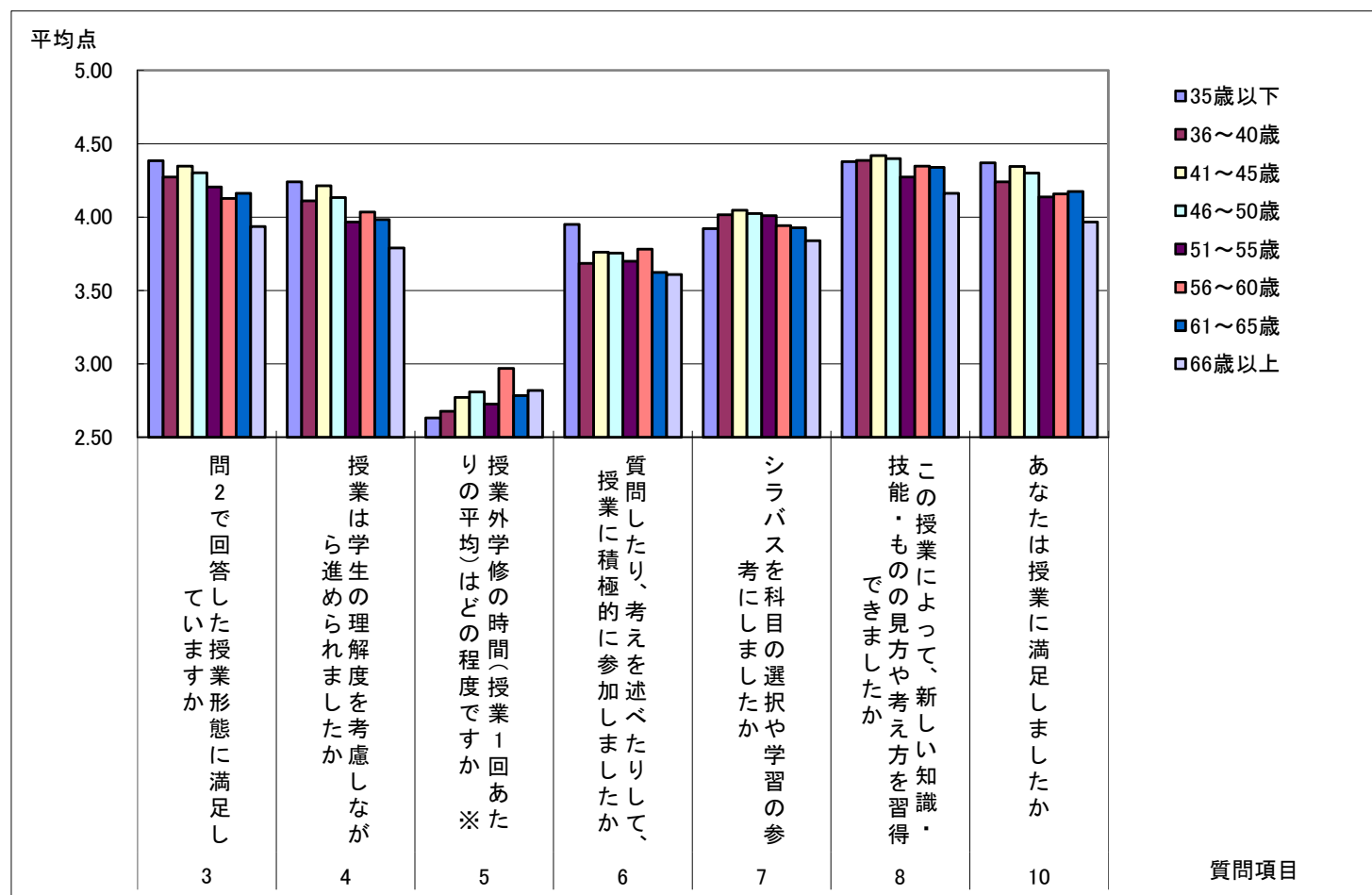


2020年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,912	3,521	6,854	7,346	9,449	8,689	9,307	10,793
回答者数	725	1,377	2,648	2,901	3,608	3,355	3,848	4,383
回答率(%)	37.92	39.11	38.63	39.49	38.18	38.61	41.35	40.61

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 問2で回答した授業形態に満足していますか	4.38	4.27	4.35	4.30	4.21	4.13	4.16	3.94
4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められましたか	4.24	4.11	4.21	4.13	3.97	4.04	3.98	3.79
5 授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか ※	2.63	2.68	2.77	2.81	2.73	2.97	2.78	2.82
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか	3.95	3.69	3.76	3.75	3.70	3.78	3.62	3.61
7 シラバスを科目の選択や学習の参考にしましたか	3.92	4.02	4.05	4.03	4.01	3.94	3.93	3.84
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか	4.38	4.39	4.42	4.40	4.27	4.35	4.34	4.16
10 あなたは授業に満足しましたか	4.37	4.24	4.35	4.30	4.14	4.16	4.17	3.97

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2 各学部の令和2年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 令和二年度家政学部FD委員会構成

委員長：小林 実夏（食物学科） 委員：水谷 千代美（被服学科） 川口 美喜子（食物学科） 林 明子（児童学科） 小関 右介 藤井 直子（ライフデザイン学科）

大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：市川 博（家政学部長）

2. 授業改善のためのアンケートについて

今年度から実施方法が、マークシート方式からWEB方式（UNIPAの利用）に変更された。設問項目は、コロナ禍も考慮され前年度から大きく変更となり、前期と後期でも異なっている。前期のアンケートは、6段階評価による全8問の質問項目により実施されたが、オンライン授業に対する意見を自由記述で回答させたため、授業形態に対する満足度を数値で計ることが難しかったことや選択肢の一部がオンデマンド型授業に対応できていなかったことなどから、後期のアンケートは設問を変更し、6段階評価による全10問の質問項目により実施された。

専任教員・非常勤教員ともに原則として全科目を実施対象とした。なお、実施期間は、前期が令和2年7月9日（木）から、8月5日（水）まで、後期が令和3年1月9日（土）から1月30日（土）までとした。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計、結果などの概況を記しておく。

① 前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：19,382名／30,809名（回答率62.9%）

後期：11,238名／27,460名（回答率40.9%）

② 家政学部全体として

Q10（総合的満足度）の平均点は後期4.15（前期は設問なし）であった。前年度は前期4.30、後期4.28だったので、0.1ポイント以上下回る結果となった。

Q8（授業の成果）の平均点は前期4.28、後期4.32であり、前年度は前期4.04、後期4.07だったので、0.2ポイント以上と前年を大きく上回った。

③ 家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「ライフデザイン学科専門科目」と「児童学科専門科目」が多く項目で全体の平均点を上回っている。逆に、回答者数が少ないが「諸課程科目（千学部／短大）」は大半の項目で全体を下回る結果となった。

Q10（総合的満足度）を見てみると、あまり大きな差のない中、「被服学科専門科目」と「諸課程科目（千学部／短大）」が全体を大きく下回る結果となった。

Q8（授業の成果）を見てみると、「家・文・社・比外国語科目」と「諸課程科目（千学部／短大）」が全体を大きく下回る結果となった。

④ 家政学部全体と授業形態別を比較して

傾向としては、「実習」が全体の平均を大きく上回る項目が多く、「実験」が大きく下回る項目が多い結果であった。

Q10（総合的満足度）を見てみると、「実習」が全体より0.1ポイント以上高く、「実験」が0.1ポイント以上低い結果となった。

Q8（授業の成果）を見てみると、「実習」が全体を大きく上回っており、「実技」が大きく下回る結果とな

った。

なお、「講義・演習」「講義・実験」「講義・実習」は回答者数が少ないため、考察から除外した。

⑤ 家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

傾向は例年と同様で、「1～15名」が全体の平均を大きく上回る項目が多く、「101名以上」が大きく下回る項目が多い結果であった。

Q10（総合的満足度）を見てみると、「1～15名」が全体より0.1ポイント以上高く、0.1ポイント以上下回るクラスサイズはなかった。

Q8（授業の成果）を見てみると、「1～15名」が全体を大きく上回っており、「16～30名」が大きく下回る結果となった。

3. 学部内全専任教員のFD報告

今年度は後期授業アンケート結果が返却された後、以下に記した、A～Cの3項目について、一人当たりの記述全体が40字×20行以内で記名入報告文の作成を依頼した。3月初旬までに各教員から、FD報告文が提出された。

家政学部では現状、解析結果を学部全体で共通のアクションへ繋げることなどを実施していないが、提出された報告文によって普遍的な事例などが意識共有されているものと捉えている。

A. 今年度の授業アンケート実施科目(前後期)のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた、次年度以降の改善構想について記して下さい。

B. オンライン授業の中でアクティブ・ラーニングを実施した授業について、その効果や問題点を挙げてください。実施を考えたものの実施にはいたらなかった授業については、実施を計画するに当たって感じた障壁・問題点を記してください。

C. オンライン授業を行う際に工夫されたこと、その効果や問題点を挙げてください。

4. 本年度の家政学部FD委員会における主な報告・審議事項

第1回家政学部FD委員会(4月25日(土))：2019年度FD委員からの引継ぎ事項である「2019年度FD報告文より抜粋された記述の家政学部教授会での紹介」「授業に関するアンケート」について検討し、2020年度FD活動計画について審議された。

第2回家政学部FD委員会(10月22日(木))：前期UNIPAによる「授業改善のためのアンケート」実施結果について意見交換を行った。一方、「学生を交えたFD活動について」はコロナ渦での実施は難しく来年度に持ち越すことが決定された。

第3回家政学部FD委員会(2月9日(火))：2020年度FD活動の総括、FD報告文用の質問項目および取りまとめについて、および2021年度家政学部FD活動の実施計画について審議された。

以上については、2020年度家政学部FD活動報告書を参照されたい。

5. その他

授業担当者懇談会開催 10月31日(土)

学習の到達度を図るため在校生の実力確認テストの実施 4月ガイダンス時(食物学科)

入学時・卒業時アンケートの実施(全学科)

以上

(2) 文学部

令和2年度の文学部および文学部三学科のFD活動は、新型コロナウイルス感染症の流行による授業のオンライン化の影響を受け、昨年度までの活動を一部変更して行われた。具体的には、1)「授業改善のためのアンケート」調査と回答結果の分析、2)『文学部FD活動報告書』の作成、については例年どおり実施したが、これまで前期・後期に1回ずつ実施してきた公開授業の実施は見送ることとなった。代わりに授業のオンライン化に対応するため、教員間で様々なフォーマル、インフォーマルなFD活動が展開された。

本報告では、上記活動について順に報告する。

1) 「授業改善のためのアンケート」の実施について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う授業期間の変更に伴い当初の予定を後ろ倒しし、前期は7月9日(木)～8月5日(水)、後期は1月9日(土)～1月30日(土)の期間に実施された。アンケート設問については、全学共通の回答シートを活用した。

なお、今年度より、アンケート方法が、紙媒体での実施から学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT (通称、UNIPA) を活用したオンラインでの実施へと変更となった。実施対象科目については、昨年度決定された方針を引継ぎ、原則すべての教員が担当する全授業を対象として実施された。ただし例外として、アンケート項目が授業の内容や実施方法に適さないと思われる科目(卒業論文、ゼミ、オムニバス、個別指導の科目等)や、回答者の匿名性を担保するために受講者が10名未満の少人数履修科目はアンケート対象から除外できるものとした。

アンケート実施科目は、前期338科目、後期326科目で、総科目数は664科目であった。回答率は、専門科目51.8%、教養科目56.1%、諸課程科目55.5%であり、昨年度に比べ低い回答率となった。今年度よりアンケートがウェブ化され、期間中にいつでも受講者が回答できる方式となったことが回答率に影響したと考えられる。

アンケートのウェブ化に伴い、個々の教員が担当授業に対するアンケート結果をアンケート実施期間終了後即座にUNIPA上で確認できるようになった。このことにより、各教員が学期終了後すぐに自らの授業に対する学生の反応を確認し、次学期の授業構築に生かすことができる体制が整えられた。

アンケートの分析結果からは、コロナ禍で多くの授業がオンライン上での実施となったにも拘わらず、今年度も授業の進め方や授業に対する学生の満足度は三学科を通じて一定程度高い評価が得られたことが示された。また、学生自身の授業外の自律的な学習について問う「授業外の学習の時間はどの程度ですか」という設問に対する回答の値は、前年度までの平均値よりも大幅に改善した。コロナ禍での授業のオンライン化にともない、出席確認に代わるものとして課題提出が多くの授業で求められたことで、学生の自律的な学習習慣が促進されたと推測される。また、授業形態を問う項目について、前期はリアルタイム型よりもオンデマンド型が多く、後期にはリアルタイム授業の割合が増えた。後期には、リアルタイム授業のツールに対する教員の習熟度が増すとともに、学生の通信料に対する不安もある程度解消されたことから、リアルタイム型を選択した教員が増えたためと考えられる。

アンケートの詳細な結果データと分析内容は、『令和2年度大妻女子大学文学部FD活動報告書』に掲載されており、大学教員専用サイトから見られるようになっている。

2) 公開授業の実施について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前期はほぼ全面的にオンライン授業、後期も一部を除きオンライン授業となったことから、本年度は三学科ともに実施を見送った。

3) 『令和2年度文学部FD活動報告書』の作成について

昨年度より、それまでの印刷冊子による配布にかわり、『文学部FD活動報告書』をウェブ化し大学ホームページに掲載しており、今年度もその方針を踏襲した。専任の先生方、事務職員の方々には大学ホームページの教職員サイトから自由にご覧頂くことが出来、かつ必要箇所のみ閲覧や印刷が可能になることから、本報告書をより身近に利便性高くご利用いただければ幸いである。また、非常勤講師の先生方で報告書をご閲覧なされたい場合には、是非とも文学部FD委員会までご連絡を賜りたい。

4) その他の活動

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により急遽授業のオンライン化が決定されたことに伴い、各学科で授業方法について様々なフォーマル、インフォーマルな学び合い活動が行われた。例えば、日本文学科では、リモート授業経験共有会(8月8日)が開催された他、「Zoom使用に関するTipsリンク集」の作成と配布、対面とオンラインのハイブリッド授業に関する研修会(9月7日)が行われた。また、コミュニケーション文化学科では、オンライン授業に関する学科内懇談会(8月7日)や後期の授業運営に向けた独自の学生アンケートの実施(7月27日～8月2日)などが行われた。

上記の他、文学部のFD活動として各学科において下記活動も実施した。とりわけ、各学科の授業担当者懇談会においては、コロナ禍での授業運営について活発な意見交換や情報共有が行われた。

① 授業担当者懇談会

日本文学科：	2020年10月31日(土)(対面で実施)
英語英文学科：	2020年10月17日(土)(Zoomで実施)
コミュニケーション文化学科：	2020年8月20日(木)(Zoomで実施)

② 学会活動

以上の活動については、『令和2年度大妻女子大学文学部FD活動報告書』に詳細が報告されているため、そちらをご参照されたい。

以上

(3) 社会情報学部

1. 令和2年度社会情報学部 FD 委員会構成

委員長：木村ひとみ（環境情報学専攻）、委員：本郷健（情報デザイン専攻）、佐藤洋一（社会生活情報学専攻）、正村俊之（社会生活情報学専攻主任）、細谷夏実（環境情報学専攻主任）、市村哲（情報デザイン専攻主任）、原田龍二（語学代表）、オブザーバー：関えいこ（学務助手：庶務、記録）

2. 本年度の FD 活動の概要

社会情報学部が組織的な FD 活動を開始して 19 年目にあたる令和2年度もこれまでの活動成果を継承しつつ、オンライン授業に伴い FD の実施方法を見直し、新たな課題にも向き合いながら、以下の FD 活動を実施した。

①学生とのオンライン意見懇談会の開催

本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施したオンライン授業について、前期の授業評価アンケートの結果も踏まえ、10月30日に教員と学生とのオンライン意見懇談会を開催した。

②オンライン FD 研修会の実施

12月23日にオンラインで FD 研修会を実施し、昨年までの出席率を大幅に上回る教員 59 名（参加率 98.3%、欠席 1 名）が参加した。研修会の資料として、事前に教員に作成を依頼した Tips 集（以下⑤）、オンライン授業に関する学生との意見懇談会議事録を配布した。

③特定枠プロジェクト研究の実施

特定枠プロジェクト研究として、以下3件に助成を行った。

(1) 研究テーマ「環境情報学専攻におけるオンライン授業プログラムの工夫と改善の方向性に関する研究」

研究代表者：木下勇、共同研究者：細谷夏実・松本暢子・下井倉ともみ

(2) 研究テーマ「入学予定者を対象とした数学基礎教育の検討」研究代表者：市村哲、共同研究者：松田晃一・小野茂

(3) 研究テーマ「3年生向け PROG テスト」研究代表者：小野茂

④FD 研究会

昨年度採択された以下2件の、特定枠プロジェクト研究、プロジェクト研究の成果につき、今年度12月23日の FD 研究会で報告があり、本学部でも初めてとなるオンラインでの FD 研究会には、全学部教員（出席率 100%）が参加し、学生の傾向の変化についての関心を共有した。

(1) 講演者：小野茂「演題 2019 年度実施 PROG テストの結果報告」

(2) 講演者：市村哲、松田晃一、小野茂「入学予定者を対象とした数学基礎教育の検討」

⑤Tips の作成

昨年度に引き続き、日頃の授業活動の改善・充実を図ることを目的に、講義等における授業改善のためのアイデアを集めた Tips 集の編纂と情報の共有を行った。特に、今年度は全教員による初めてのオンライン授業の実施と学生による授業評価アンケートの結果を踏まえ、オンライン授業での好事例の共有のみならず、教員の試行錯誤の経験、学生の反応や評価を踏まえた今後の授業の改善点などを Tips 集として取りまとめ、FD 研

修会で全学部教員に配布した。

⑥入学時授業アンケートの実施

入学時授業アンケートを実施し、1年生 299 名中 273 名のアンケートを 9 月に延期実施されたオリエンテーションで回収した（回収率 91.3%）。

⑦卒業時の学生生活調査アンケートの実施方法の見直し

オンライン授業の実施に伴い、従来の 4 年ゼミでのアンケート実施にかわり、クラス manaba に掲載した google form で匿名性を確保して専攻毎に実施した。

⑧「より良い授業評価アンケートのための教育活動」への専攻別取組み

環境情報学専攻及び情報デザイン専攻では 1 年生の基礎ゼミ、社会生活情報学専攻ではゼミ（アンケート調査）で実施した。

⑨オフィスアワーの実施方法の見直し

大学 HP の教員紹介に掲載されているオフィスアワーの実施方法につき、対面形式とオンライン形式が併用される予定の来年度の授業形態に応じ、時間割上、在宅で研究室に訪問できない学生の状況や、年間を通じた感染状況の不確実性を考慮し、授業、ゼミ、クラス担任別に設定されている manaba を通じてオフィスアワーの実施方法（特に、オンラインでのオフィスアワー実施の場合の URL 等）を周知し、例年通り 90 分の教員のアクセスを確保することとした。

⑩授業評価アンケートの実施

全学 FD 活動として、前期、後期にオンラインで実施した。

⑪授業評価アンケートに関する教員の意見の提出

従来からの取り組みを継続し、授業評価アンケートに関する教員の意見の提出を行い、とりまとめて全学部教員に配布した。

⑫その他

その他、学部ホームページの更新、学外 FD 活動への参加を実施した。

3. 本年度の FD 委員会における主な報告・審議事項

2020 年度は、文書協議による委員会開催を含め、計 8 回（第 1 回は緊急事態宣言発令のため中止）にわたって定例委員会を開催し、必要に応じてメールによる情報共有、意見交換を行った。

上記活動については、『令和 2 年度大妻女子大学社会情報学部 F D 活動報告書』に詳細が報告されているため、参照されたい。

以上

(4) 人間関係学部

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは大きく異なる状況下で下記のFD活動の取り組みを行った。

1) 学部FD研修会の実施

「授業をよりよくするためのオンライン授業 Tips」という研修を Zoom により実施した（令和2年12月11日）。研修会の内容と参加者の意見については、令和2年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

2) 学生による授業評価

令和2年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。なお、今年度より全学でUNIPAを用いて実施した。また、アンケート項目についても今年度に特化した形の項目に急遽変更した。

3) 授業改善に向けた学生代表者との意見交換

教育の質の更なる向上に向けて、令和2年度においても、授業改善について学生代表者との意見交換を行った（令和3年1月22日（金））。意見交換の内容については、令和2年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

4) オンライン授業実践に関するアンケート

新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでの授業となった今年度前期を終えた段階で、教員を対象としたオンライン授業実践に関するアンケートを行った。具体的なアンケートの内容と結果については、令和2年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

5) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本年度は対面ではなくオンラインでのオフィスアワーの実施という初めての試みを行った。

6) 非常勤講師との教育懇談会

例年前期・後期に実施している非常勤講師との教育懇談会であるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により前期開催分は中止となり、後期のみ実施した。教育懇談会の内容については、令和2年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

7) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD活動の一層の充実を図っている。

8) 各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、令和 2 年度人間関係学部 FD 報告書の中でも各学科における FD 活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

9) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和 2 年度人間関係学部 FD 報告書の中でも各教員が 1 年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

(5) 比較文化学部

本学部では主に、(I) 授業改善のためのアンケートの実施、(II) 前期終了後のオンライン授業振り返りならびに学科会議内におけるFD懇談会、(III) オフィスアワーの実施、(IV) 授業担当者懇談会に取り組んだ。ここでは(I)、(II)について詳しく報告する。

(I)「授業改善のためのアンケート」実施について

a) アンケート実施時期と実施方式

全学での実施期間に合わせて、前期は2020年7月9日(木)～8月5日(水)の期間に、後期は2020年1月9日(土)～2021年1月30日(土)の期間に実施した。今年度からUNIPA上でアンケートが実施されることになったが、コロナ禍のオンライン授業のさなか、UNIPAとmanaba双方に注意を払わなければならない学生がアンケートを見落とすことを懸念して、FD委員会より学科会議の場を利用した告知をおこない、教員からも学生のアンケート参加を促してもらうよう依頼した。

b) 実施科目の受講者数と有効回答数

比較文化学部には、通年、半期あわせて前期授業217コマ、後期授業212コマ(共に、3年ゼミの比較文化演習と、4年ゼミの比較文化セミナーを含む)が開講されている。本学部では、原則としてゼミ(3年ゼミに相当する比較文化演習ならびに4年ゼミに相当する比較文化セミナー)を除く全ての科目でアンケートを実施した。ただし、履修者数が極端に少なく(5名以下)その集計結果から学生が特定されかねない科目については、アンケート実施対象から除外した(前期、後期ともに8科目)。その結果、前期には169の授業で、後期には164の授業でアンケートを実施した。

実施科目の受講者数は、前期は22,421名、うち有効回答者数は14,378名(回答率64.13%)であった。他方、後期の実施科目の受講者数は19,391名、うち有効回答者数は8,042名(回答率41.47%)であった。昨年度の回答率(前期81.24%、後期77.37%)と比べると、全学委員会で想定されていたとおり、従来の教場でのマークシート記入方式よりも回答率が低下した。

c) 集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは各授業別の集計結果だけでなく、授業方法別(講義・演習・講義演習)、区分別(外国語・教養・専門)、クラスサイズ別、言語別、学年別、担当教員の職名別、担当教員の年齢別、全授業の平均評定平均度数分布といった集計結果を得た。

d) アンケート結果の伝達、教員からのフィードバック

授業単位の集計結果は、成績登録期間終了後にUNIPAから担当教員が直接確認することができるようになった。そのため、アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPAを通じて授業担当教員本人にその旨を告知した。

告知の際、集計結果に対する所感、感想執筆を全教員に対して依頼した。前期は専任教員14名、非常勤教員15名の計29名から、後期は専任教員11名、非常勤教員8名の計19名から応答があった。

h) 一連のサイクル実施の報告

従来、年度開始後（前期）のアンケート結果の概要につき、後期に開催される父母懇談会にて説明してきたが、近年は後期に父母懇談会が実施されないため、また今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で保護者と接する機会が他になかったため、行っていない。代わりに、web で公開することができるよう、PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊する。

(II) 前期終了後のオンライン授業振り返りならびに学科会議内における FD 懇談会について

a) オンライン授業振り返り

前期授業期間終了後、比較的早い段階で教員が UNIPA を通じて「授業改善のためのアンケート」回答結果を閲覧することができたため、夏季休業期間中に、前期オンライン授業の振り返りを実施した。具体的には、学院で契約している Google 内に共有スプレッドシートを作成し、そこに科目群ごとの取り組みや良かったところ、工夫を要したところ、反省点などを自由に記入、閲覧することにより、情報交換ならびに後期オンライン授業の準備とした。

b) 学科会議内における FD 懇談会

シラバス執筆期間になる前の 2020 年 11 月 9 日に開催された学科会議において、前年度卒業（2020 年 3 月卒業）学生の入学アンケート、卒業時アンケート、比較文化セミナー（4 年ゼミ）成績、卒業論文成績、教員が卒業論文およびゼミでの学びをもとに判定する「ディプロマポリシー達成度」の調査結果に見られる相関を分析した資料を共有し、本学部のカリキュラムを学修して卒業する学生の成長度について検討した。

以上

(6) 短期大学部

1. 令和2年度短期大学部FD委員会の構成と活動方針

短期大学部FD委員会は家政3専攻から各1名、国文科から1名、英文科から1名の計5名の専任教員によって構成されている。昨年度に引き続き、以下の項目を中心にして、FD活動の実施・検討を行った。

- (1) 授業改善のためのアンケート
- (2) オフィス・アワー
- (3) ホームページ
- (4) 授業公開
- (5) 学習支援活動
- (6) FD講演会、FD研修会
- (7) 満足度調査

なお、毎年行っていた保証人との懇談会はコロナ禍により中止となった。

2. 令和2年度のFD活動の概要

活動の詳細は、令和2(2020)年度FD活動報告書第18号に掲載した。ここでは、その概要を記す。

(1) 「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。オンライン授業のため今年は初めて学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT (ユニバーサルパスポート)」でオンラインによるアンケートを実施した。紙媒体ではないため、アンケート項目も見直し、質問項目は前期全8問、後期全10問とした。アンケート実施対象は原則全授業だが、いくつか例外もあった。

アンケートの実施期間は、前期は令和2年7月9日～8月5日、後期は令和3年1月9日～1月30日であった。アンケート期間終了後に各教員がユニパで回答結果を確認した。

短期大学部全体として、前期は履修者総数7,146人中5,596人、後期は履修者総数6,155人中3,029人から回答を得た。前期・No.1から5までのカテゴリーの平均値は3.74、後期・問4から8,10の平均値は3.84であり、前期より後期にポイントの向上が認められた。

(2) オフィス・アワーについて

各学科・専攻の専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、今年度はオンライン授業が主体だったので、zoomやEメールを活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心掛けた。

(3) ホームページについて

短期大学部広報委員会を中心に、3学科が共同でホームページの維持と管理を実施した。ホームページは、高校生が進学先を選択する際に重要な情報源となるばかりでなく、本学短期大学部からの対外発信の主要な手段となるものである。新任教員の紹介ページを加え、ページの充実を図った。今年度はコロナ禍のため対面によるオープンキャンパスの中止を余儀なくされた期間もあり、その連絡・案内のためにも活用された。

(4) 授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員 17 名が授業を公開し、国文科では専任教員の 1 名が、英文科では新任の専任教員 1 名が公開担当した。「授業公開」に関する案内は、Eメールで周知した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施して、参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、また両者での話し合いの場を設けて意見交換をするなどして、今後の授業の改善に繋げた。

(5) 学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施されている。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

(6) 短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について

FD 講演会は、「短大におけるアクティブラーニングの運用と効果」をテーマとして、令和 2 年 11 月 12 日(木)に zoom で開催した。講師は桐蔭学園理事長の溝上慎一先生である。アクティブラーニング教育の第一人者である溝上先生にご登壇いただくにあたり、あらかじめ FD 委員を介して短期大学部の教員から聞きたいテーマを提出してもらい、質問を溝上先生に送り、当日の講演に備えていただいた。当日は 1 時間半以上にわたる熱のある内容の濃い実践的な講演だった。参加者の感想のほとんどは 5 段階評価の 5 の「とても良かった」であった。

また FD 研修会を、令和 3 年 2 月 12 日(金)に「授業改善を学生とともに考える」をテーマとして、学生も参画して zoom で実施した。当日の参加者は、学生 12 名、教員は短期大学部の学部長、学科長、専攻主任、有志の教員の合計 12 名、事務職員 4 名であった。あらかじめ学生にはグループディスカッションのテーマを配布し、当日までに準備を依頼し、Zoom で 5 ルームに分かれ議論した。今年度は特にオンライン授業についての意見も求めた。学生からは活発な意見が寄せられ、多くの示唆を得た研修会となった。

(7) 満足度調査について

満足度調査は、教育成果の確認と教育環境の改善・向上に役立てることを目的として例年実施しており、今年度はコロナ禍の為令和 3 年 2 月 19 日(金)～3 月 7 日(日)にオンラインの Google アンケートで行った。卒業年次生を対象として無記名で行なったが、オンライン実施の影響もあって回答の総計は例年より大幅に少ない 233 名(前年は 349 名)に留まった。

「全体的にみて」の項目では、「満足」が 39%で「やや満足」の 35%を加えると 74%となり(昨年は 76.6%、一昨年は 73.6%)、概ね満足と回答している。評定平均は 4.06(昨年は 4.11)であった。年度当初から後期の数か月を除いてオンライン授業を継続せざるを得なかった今年度の状況下では、高い評価を受けたと考える。

以上

3 人間文化研究科の令和2年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会は、令和元年度～3年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

I. 令和元年～3年度大妻女子大学大学院FD実施計画

1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」
令和元年度のアンケートを用いて実施する。回収率の向上を目指す。
- ④ 院生・教員懇談会の実施
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。アンケートの希望が多かった大学院生の就職支援体制の充実を図る。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動
・千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討す

る。

- ⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動
 - ・専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。
 - ・大学院の組織の見直し（特に博士後期課程）を検討する。
- ⑫ その他の活動
 - 大学院生室の有効活用の検討など

II. FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。①と②については、平成28年度からWebを利用して調査している。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、11月に実施した。その結果については、「III. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で11月に実施した。その結果については、「IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」

令和2年3月修了予定の院生に対しては、大学院における今後の進路指導の課題に鑑み、就職先の実態を把握することとした。その結果は、XI.「就職支援に関する活動」欄のとおりである。

III. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

III-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、11年目を迎えた。本年度も「大学院FD活動実施計画」に基づき、各種の活動を実施してきたが、これまでの活動との比較を考慮して、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（IV.参照）を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施している。以下に両調査の結果の概要を大学院のFD活動を継続的に考察するための資料として提示する。なお、大学院の在学生在が少ないため、専攻・専修や在学年を答えると回答者が特定される懸念があることから、昨年度から修士1年生向けアンケートでは、「専攻」の質問を削除、全大学院生向けのアンケートでは所属する課程のみを聞き、またその回答は必須としないことにしていた。しかしながら令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により様々な学生生活が制限されている状況を鑑み、平時を経験していない1年生と2年生以上で回答に差が出る可能性があることから、今年度は「学年」を設問に加えた。ただし回答は任意とした。

III-2 進学意識に関する調査の目的と方法

令和2年度の修士課程1年生は、アンケート実施時には18名であった。新入学の修士課程1年生を対象とする「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、修了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

Ⅲ-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は次の要領に基づいて実施した。

(ア) 調査の対象：令和2年度人間文化研究科各専攻修士1年生18名を対象とした。回答者は15名だった。

(イ) 調査の期間：令和2年11月1日～11月30日

(ウ) 回収の状況：平成26年度から今年度までの1年生の回答者数と回収率を表1に示した。今年度の回収率は83.3%であった。当初予定していた2週間では回答率が低かったため、あらためて注意喚起したうえで月末まで延長したことから、昨年度ほどではなかったが回答率が高くなったと考えられる。

表1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成26年度 (H26)	平成27年度 (H27)	平成28年度 (H28)	平成29年度 (h29)	平成30年度 (H30)	令和元年度 (R1)	令和2年度 (R2)
新入学者	20	19	22	24	18	18	18
回答者	13	15	16	19	12	17	15
回答率(%)	65.0	78.9	72.7	79.2	66.7	94.4	83.3

Ⅲ-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る1～12項目に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表2に示した。「非常に重視した」5点、「かなり重視した」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまり重視しなかった」2点、「ほとんど重視しなかった」1点、「まったく考えたことがない」0点として平均点を算出した。

表2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H26(n=15)	H27(n=14)	H28(n=16)	H29(n=19)	H30(n=12)	R1(n=17)	R2(n=15)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	2.9	3.3	3.7	3.9	2.9	3.4	2.8
2	専門分野の学位が取れること	3.3	3.5	4.0	4.1	3.9	3.6	3.8
3	就職に有利になること	1.9	2.8	3.5	3.3	2.3	2.5	3.0
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	2.1	3.0	2.1	3.2	3.0	2.6	3.3
5	指導を受けたい教員がいること	3.4	3.7	4.4	4.4	3.8	4.0	4.5
6	大学のネームバリューがあること	2.0	2.1	2.3	2.5	2.2	1.8	2.5
7	就職を先に延ばせること	1.8	1.7	2.2	1.7	1.6	1.3	1.3
8	希望する就職先がなかったこと	1.3	1.3	1.5	1.4	1.2	0.6	1.4
9	奨学金を受給できること	1.3	1.9	2.7	2.3	1.6	1.8	1.3
10	専門の資格が取れること	2.4	2.8	4.0	3.8	3.1	2.6	2.0
11	研究したいことがあること	3.1	3.7	4.2	4.3	3.8	4.1	4.2
12	在学中の学費の支払いのこと				3.5	3.4	2.9	3.4

注1：表中数値は平均値

表2に見られるように、全体的な傾向としては過去6年間とほぼ同様であり、「指導を受けたい教員がいること」「研究したいことがあること」「専門分野の学位が取れること」といった項目が上位を占めている。以下に述べる表3「大学院進学にあたって影響源となった項目」においても、重視されている項目が指導教員や学部時代に世話になった教員、あるいは出身大学の教員との相談であることを考えると、大学院進学への動機づけに教員が大きく関与していることが分かる。

この質問に対しては以下の自由記述があった。

- ・研究したい分野に精通した教授が大妻にいることを学部時代の先生から教えていただき、進学を決めました。
- ・専修の教員免許状を取得できること。

Ⅲ-5 大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

		平均点数 (5~1点評価)						
		H26(n=15)	H27(n=11)	H28(n=11)	H29(n=19)	H30(n=12)	R1(n=17)	R2(n=15)
1	本学の先輩の研究成果を見たこと	1.8	1.6	1.9	2.8	1.7	2.4	2.0
2	大学院に行っている友人・知人からの情報	2.5		2.5	2.9	2.0	2.9	2.1
3	両親や兄弟姉妹から勧められたこと	1.7	1.5	1.1	1.8	2.2	1.9	1.3
4	自分の配偶者の意見	0.5	1.0	0.3	0.6	1.1	0.8	0.2
5	大学院紹介の受験雑誌などの記事	1.9	2.1	1.2	2.1	1.2	1.1	0.9
6	本学発行の大学院紹介パンフレット	2.2	3.1	3.0	2.9	2.6	2.6	2.3
7	学内の大学院進学説明会	3.2	2.5	2.5	3.6	2.9	1.8	2.6
8	学外の大学院進学説明会	0.9	2.2	1.2	1.4	0.8	0.8	0.2
9	本学のホームページの記事	2.2	2.4	2.7	2.6	2.0	2.9	2.5
10	指導教員になる教員との相談	2.9	3.5	4.5	3.9	4.2	4.2	4.5
11	学部時代に世話になった教員との相談	2.6	2.3	2.7	3.0	3.4	3.1	2.9
12	出身の大学の先生との相談	2.7	3.0	2.7	3.0	3.6	2.5	2.0
13	出身の高校の先生との相談	0.5	1.1	0.9	0.8	0.2	0.4	0.3
14	教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから		3.0	3.9	3.8	3.6	3.9	3.9
15	他の大学院にはない独自の文化資源(蔵書、マニユスクリプト、物的資料など)があると考えたから		3.0	1.6	2.1	1.8	1.9	2.4

注1：表中の数値は平均値である

過去6年間の傾向を見ると、「指導教員になる教員との相談」がそれぞれの年度において第1位となっているが、今年度最も高い得点となっており、やはり指導教員の影響が大きいことが伺える。また、平成27年度から追加された「教員の業績と研究テーマを見て、将来、自分のテーマを追求していくうえで最適な場所と考えたから」が進学に当たっての動機の大きな要因となっており、今年度に関しても同項目の平均点は指導教員の影響に次ぐ高得点となっている。こうしたことを踏まえると、大学院教員の研究力・発信力が、学生が大学院進学を決めるにあたって重要な要素になっていると言える。「本学のホームページの記事」も例年、比較的高い数値を示しているため、令和2年度のホームページ改訂の影響について次年度以降、注目したい。

この質問に対しては以下の自由記述があった。

- ・大学のゼミの先生
- ・大妻は設備がしっかり整っていることと、高齢者を対象に研究していた教授がたくさんいらっしゃることをホームページや学部の先生からお話を聞きました。また、実際に面談をした時に具体的な研究について教授から親切に説明していただけたため、進学を決めました。

Ⅲ-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」との質問では、回答した15名のうち13名が「いいえ」と答えた。他大学大学院の受験者は2名であった（昨年度は15名の回答者全員が「いいえ」と答えた）。

Ⅲ-7 大学院修了後の進路及びどの様な大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どの様に考えていますか」については平成 28 年度からの推移を表 4 に、「あなたはどの様な大学院生活を送りたいですか」については平成 26 年度からの推移を表 5 にまとめた。

表 4 および表 5 に関しては、複数回答であるため回答率で示した。今年度特徴的なことは、ほとんどの設問に対する回答率が昨年度よりも低くなっていたことである。また過去 5 年間で最も低い回答率となった項目に「博士後期課程に進学したい」13%、「海外に留学したい」0%などがあり、一方で「公務員として就職したい」が 20%と過去 5 年間で最も高い回答率となっていた。単年度の結果なので解釈は慎重にすべきだが、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられるため、次年度以降の推移を見守りたい。

表 4 大学院修了後の進路について（複数回答）回答率（%）で表示

	H28	H29	H30	R1	R2
1 博士後期課程に進学したい	22	26	42	35	13
2 外国に留学したい	22	16	17	6	0
3 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい	28	21	25	12	13
4 専門社会調査士として就職したい	0	0	17	6	0
5 臨床心理士として就職したい	22	37	33	24	13
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	6	16	8	24	13
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	11	0	17	24	20
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	11	16	17	24	13
9 公務員として就職したい	11	11	17	12	20
10 大学教員として就職したい	6	16	8	29	13
11 まだ具体的に考えていない	28	5	8	18	27

注1：希望は複数回答のため、合計は100%を超えている。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあった。

- ・日本に1-2年間就職して、中国に戻ります。
- ・修士課程終了後は、地域包括ケアシステムについて学ぶために、一度現場（行政や地域の訪問栄養士など）で働き、ゆくゆくは博士課程をとりたいと考えております。
- ・現在非常勤講師として働いている私立高校に就職する予定です
- ・コロナの影響もあり就職活動が難航している現在、研究と同時進行できるのか

大学院生活への希望を尋ねた結果を表5に示した。

表5 どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1 専門分野についての研究中心の生活をしたい	33	20	44	63	17	59	53
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい	87	82	61	58	50	53	80
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	27	27	44	42	25	18	0
4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい	7	27	17	16	8	18	0
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	20	13	11	16	8	12	20
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	33	53	17	37	25	18	47
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	7	0	0	11	17	12	7
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	20	27	11	6	8	12	13
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	27	27	17	16	17	18	33
10 どうするか、まだはっきり考えていない						9	7

注1：表中数値は%

どんな大学院生活を送りたいかについて見ると、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」と「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」の回答率が同程度の50%前後であった。また今年度は「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」と「自由な時間をできるだけ楽しみたい」と自由時間を重視したいという希望が高くなっていった。専門分野も周辺分野も学びたい、そして研究も自由時間も大切にしたいといったバランスの取れた大学院生活の希望が高いと言えよう。一方、これまで一定数の回答があった「たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい」、「就職活動や資格を取るための時間を多くしたい」の回答率が0%となっていた点も今年度の特徴であった。

なお、この質問に対する自由記述欄には記述がなかった。

III-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「進学意識調査」の最後に、大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだことについて自由記述欄に記述された意見を以下に掲げる。

- ・受験勉強が間に合うかどうか
- ・進学するにあたって、現場での経験がなく知識不足である事を実感しました。
- ・論文が書けるかどうか。テーマをどうするか。
- ・ちゃんとした論文を書けるのか。お金のこと(授業料など、就職がのびることで稼ぎが減ること、家庭への負担)
- ・母子家庭なので、学費のこと。
- ・社会人として働きながら、通学が出来るのか(時間的な制約、体力が続くか)、ライフイベント(結婚や出産など)が発生した場合大丈夫か、など・・・。
- ・仕事との両立
- ・勤務時間外で授業が組めることが可能であるか。
- ・私は留学生だから、一番考えたことは留学生にどんな支持サポーターがあるかという点です。

IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成25年度から回答を、「非常にそう思う；5点」から「まったくそう思わない；1点」までの5段階評価としている。評価点は、回答者全員の平均点と最高点、最低点を算出している。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な学生生活が制限されている状況を鑑み、今年度については以下の点を変更した。

(1) 個人を特定されそうで回答しにくいという学生からの意見を踏まえ、これまで「学年」は設問に含めていなかったが、平時を経験していない1年生と2年生以上で回答に差が出る可能性があることから、今年度は「学年」を設問に加えた。ただし回答は任意とした。

(2) 通常、回答のための選択肢は1～5の中から選んでいるが、昨今の状況により影響を受ける一部の設問には、「0. コロナ禍により利用していない 等」を加えた。

(ア) 調査の対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生 45 名

(イ) 回収の状況：33 件の回答があったが、1 件の無効回答があったので、有効回答は 32 件であった（回答率 71.1%）。前年度よりは下がったもののおおむね高い回答率を維持することができた。

結果の概要は以下の通りである。

IV-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表6の通りである。問1から問4までの各項目は5段階評価で3.9～4.3の間にあり、コロナ禍の制約はあったものの授業や研究指導はおおむね適切に行われているという評価であったといえる。

しかしながら、問5の学外研究・学外実習に関する項目は修士課程1年が1.2、博士後期課程が1.4と非常に低く、全平均も2.0にとどまった。後述する自由記述欄にもあるように新型コロナウイルス感染症の影響が学外での諸活動を制限したことが読み取れる。

表6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
			シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった
修士課程1年	14	3.9	3.9	4.0	4.2	1.2
修士課程2年	13	3.9	4.2	4.3	4.5	3.2
博士後期課程	5	3.8	3.8	3.8	4.2	1.4
全平均	33	3.9	4.0	4.1	4.3	2.0
最高点		5	5	5	5	5
最低点		2	2	2	2	0

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

続いて、大学院の履修および研究環境については表7の通りである。

特に修士課程1年の図書館他学校の施設設備や院生自習室の学習環境への満足度が低く、入学後、しばらく学校の施設を利用できなかったり、利用できたとしても新型コロナウイルス感染症の影響で、相当程度の制約があったことから、この結果になったと考えられる。

表7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
		事務手続きのシステム全般について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している	院生自習室の学習環境について満足している
修士課程1年	14	3.0	3.0	1.0	1.6
修士課程2年	13	3.5	3.5	2.8	3.0
博士後期課程	5	3.6	3.2	3.0	2.6
全平均	33	3.3	3.2	2.0	2.3
最高点		5	4	5	5
最低点		1	1	0	0

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

教育・研究支援について表8に示す。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10	問11
		事務職員の対応は適切であった	大学院の学費・奨学金は適切であった
修士課程1年	14	3.5	3.1
修士課程2年	13	3.9	3.6
博士後期課程	5	4.2	3.8
全平均	33	3.8	3.4
最高点		5	5
最低点		2	2

注：表中数値は平均値、最高点及び最低点である。

全体の評価は、3.8および3.4であり、学年間のばらつきも少なかったことから、全体的には適切であったとの評価結果であるといえよう。しかしながら、次項の自由記述欄にもあるように学費に応じた施設利用ができるように、との意見もあった。

IV-2 大学院の授業全般（問1～5）、履修・研究環境（問6～9）、教育・研究支援（問10～11）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1. 「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・前期は対面授業ができなかったため、演習によって知識を獲得する機会がほとんどなかった。
- ・教授と相談し合い、自分が学びたい分野に沿った授業をしてくれた。

問2. 「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・zoomメインで対面を活用しながら授業ができた。
- ・リモート授業になってから極端に授業数が減った科目もありました

問3. 「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・コロナと先生の体調不良が重なって前期はほとんど授業を受けられなかった。
- ・私の所属は保育・教育学専修である。保育関係の講義は充実しているが修論のテーマが保育そのものではないため、履修数の割には修論に結びつかないところがある。
- ・開講されている授業のバリエーションが少なく、研究分野に全く関係のない授業も履修することになった。それが自分のためにならないということはないが、できればもっといろんな授業があってほしい。
- ・研究の楽しさを感じました。

問4. 「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・メールのやりとりのみで指導を受けるのは難しかった。
- ・論文を読み込む課題が少なかった。
- ・学生の状況にあわせて対応していただき感謝しかない。毎回指導もわかりやすく適切であり、指導教員を尊敬している。
- ・アドバイスを受け、頑張ろうと思いました。
- ・主任担当教授には懇切丁寧な御指導を賜りました。

問5. 「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・学外の実習先の事情により、実習頻度が少なくなった。
- ・コロナの影響があった（2件）

問6. 「事務手続きのシステム全般について分かりやすかった。」

- ・コロナ禍で初めての試みも多く、ご苦労も感じる。丁寧な対応に感謝している。
- ・分からないわけではないが、何かあったときすぐに相談できた前年度までとは違い、事務室に気軽に行けないことが手間に感じたことがあった。

問7. 「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

- ・ガイダンスが実施されていたのか覚えていないし、実施されていなかったように思える。配布資料だけでは100%は理解できなかったし、問い合わせもメールや電話が必要になってしまったため、聞きたいことが聞きづらかった。

問8. 「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・配送貸し出しを利用した。予約して資料のコピーをしに行った。現在予約なしで行けるのは

ありがたい。

- ・気軽にいけない状況が辛い。

問9. 「大学院生室・大学院生自習室の学習環境について満足している。」

- ・ネットの通信環境やPC環境が悪い。
- ・印刷機のコピー用紙が不足していることが多い。
- ・いまだに利用できておらず、また利用できるようになったら利用方法を教えていただきたい。
- ・パソコンが入れ替わりようやくスムーズに作業できるようになった。もう少し早く半分の台数でも入れ換えてもらえるとありがたかった。
- ・教育充実費を払っている以上、入室時の消毒やソーシャルディスタンスなどを保った上で利用できるようにしてほしい。入校許可を取らなくても、入室/退室記録をつけるなどして、院生室を比較的自由に使えるようにしてほしい。

問10. 「事務職員の対応は適切であった。」

- ・事務局に電話をし保留にされた時、待ち時間が長いです。長くなる時は一度切って折り返してほしいです。長くなると電話代もかかるので学生とはいえ早めの対応を意識して欲しいです。
- ・教育支援グループの方々には親身になってお世話を頂きました。心より感謝しております。

問11. 「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・コロナで学校の設備等は利用していないので学費については納得出来ないところがあります。奨学金制度はあってとても助かりました。
- ・育英奨学金のアナウンスが遅くて不安になったが、現在もらえているのはありがたい。

IV-3 ハラスメントについて

平成24年度からアンケート調査項目に「ハラスメントについて」を取り入れた。ハラスメントに関する平成26年度からの調査結果を図1に示した。今回のアンケート調査では32名が回答し、「経験がある」が1名、「答えたくない」が5名、「経験がない」が26名であった。自由記述欄には記述がなかった。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨、例年通り明記している。

内容如何にかかわらず、ハラスメントは本来一件もあってはならないことだ。ハラスメントは一過性の行為ではなく常習的に行われるケースが多い。これは多くの教職員が経験的に知っている。教員は教育・研究指導の面で学生・院生に対して権力を握る立場にあり、その優越的地位を背景とした行為は絶対に許されない。

これまでとってきたハラスメント防止対策を再度、確認しておきたい。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。
事案にはFD委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。
- ② ハラスメントに関する回答のFD報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。
- ③ 専攻会議等で結果を報告し、注意喚起を行う。

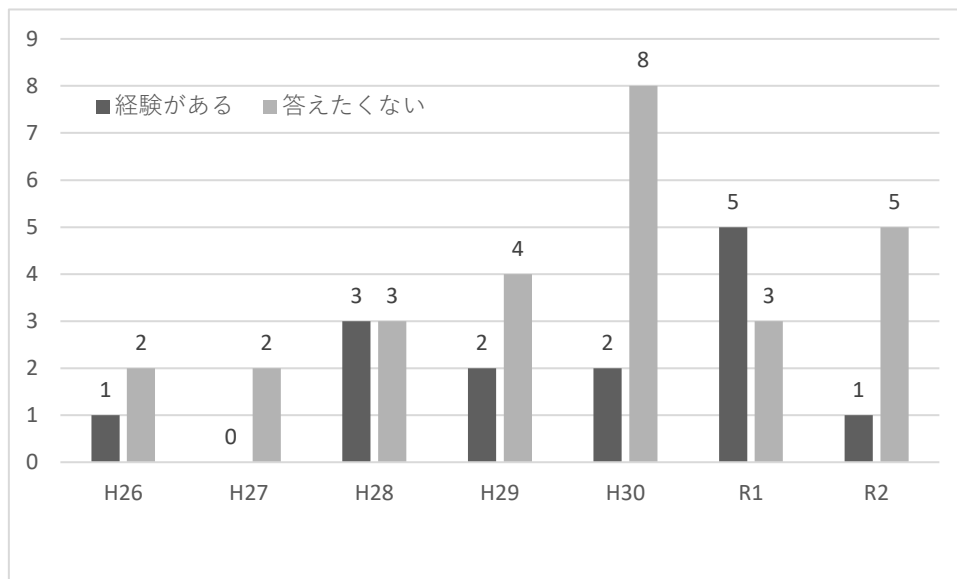


図1 ハラスメントについて

IV-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは9名から回答を得た。詳細は、「5 非常にそう思う」が3名、「4 そう思う」が5名、「3 どちらともいえない」が1名。全体の平均値は4.3であり、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。しかしながら、対面授業と比較してオンライン授業の質が低いことへの懸念の声もあり、次年度以降も引き続き教員にはオンライン授業の習熟が求められていると言えよう。

社会人入学者の自由記述は3件あった。

- ・zoomでの授業が回線が混み合い全く受けられなかった時もあった。また、質問がしづらく対面授業と比べると授業の質が劣るように思えた。
- ・基本的にはいつも丁寧に対応してくださるので感謝しています。コロナがなければ良いのですが、院生室をもっと気軽に利用したい、それに尽きます。
- ・この制限されたわずかな機会でも、何とか活かして研究することができたと思います。大学院の教職員の方々には厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

IV-5 その他意見・希望について

この質問に対する自由記述欄には記述がなかった。

V. おわりに

平成25年度から3年間のFD実施計画を立て、「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関するアンケート」を実施してきた。本年度はその3巡目（令和元年～3年度）の2年目に当たる。評価を点数化し、経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはほぼそのままを掲載した。既述のとおり、回収率は7割～8割となっており、おおむね高い回収率を維持することができた。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により大学院生はもとより、教職員も大きな制約を受ける中で大学院教育が実施された。新型コロナウイルス感染症の影響は今後の統計上の数値の推移を慎重に判断する必要があるが、数値の重要性もさることながら、自由記述の内容がとても参考になるとの印象を受けた。実際に、今回のアンケートを実施した直後に、院生の自由記述を

参考に院生自習室の利用制限の緩和を速やかに行ったことが挙げられる。また特に後期からは学内外の実習や論文指導における対面指導を、専攻や担当教員の判断で柔軟に実施する対応も取られた。このように今後も引き続き、院生の声に日常的に耳を傾けつつ、大学院の特性と機動力を活かした授業運営、研究指導が求められている。

以上

VI. 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻D	感染防止を鑑みて実施せず
人間生活科学専攻M (健康・栄養科学専修)	感染防止を鑑みて実施せず
(生活環境学専修)	感染防止を鑑みて実施せず
(保育・教育学専修)	専修内での中間発表を11月12日(木)17時30分～19時30分に千代田キャンパスで行い、院生と教員との間で修論に関する質疑応答の場を設けた。コロナ禍でもあり、例年のような懇談会は実施せず、終了時に参加した院生にお菓子を配布した。
言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、令和2年11月19日(木)および12月17日(木)に、Zoomをもちいて開催した「日本文学専修院生研究発表会」終了後、オンラインのまま日本文学専修の院生及び教員の懇談をおこなった。院生の研究発表会の開催のためのzoomアカウントの使用についての要望があった。
(国際文化専修)	新型コロナウイルス感染症等の影響により、院生・教員懇談会は実施できなかった。
現代社会研究専攻 (臨床社会学専修)	令和2年度はコロナ禍のために専攻全体での懇談会を開くことができなかった。令和3年度はオンラインを含めて様々な開催の可能性を探りたい。
臨床心理学専攻	2020年5月14日(木)の4限と5限にオンラインカンファレンスを行い、コロナ禍の学生生活に関する情報共有を行い、質疑応答なども含めて懇談会を実施した。専任教員複数名と院生全員が参加。また11月26日(木)の午前には専攻主任がM1全員に個別面談(オンライン)を行い、懇談の時間を設けた。2021年2月中旬には、院生全員に授業、実習、ゼミ指導等、学生生活全般について、意見や要望、質問等を出してもらうように依頼し、2月24日付で、書面にて回答を得た。2021年2月27日(土)17:00から19:30に専任教員と非常勤講師(スーパーヴァイザー)と会議を行って院生からの意見等を共有し、そのあとの院生と教員の顔合わせと交流を目的とした懇談・懇親会を行った。その際2月24日付の書面に対する回答をした。

VII. 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の参加状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「発表」は含まないものとし、別途、IXに記載する。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、以下の内容はすべてオンラインで行われている。

専攻	活動類型	件数	内容
言語文化学専攻 博士後期課程	学会参加	2件	【日本文学専修】 日本近代文学会秋季大会、日本近代文学会 11 月例会
人間生活科学専攻 修士課程	学会参加	23件	【健康・栄養科学専修】 コク研究会シンポジウム、第 3 回フレッシュマンセミナー、産官学連携シンポジウム「食品企業における研究・開発の取り組みと今後の展開」、第 74 回日本栄養・食糧学会、第 22 回ダノン健康栄養フォーラム、第 25 回チョコレート・ココア国際栄養シンポジウム、第 42 回日本臨床栄養学会総会・第 41 回日本臨床栄養協会総会第 18 回大連合大会、大妻女子大学スキルアップセンター夏期講習、第 17 回乳酸研究会、日本食品工学会 産官学連携シンポジウム、第 20 回日本健康・栄養システム学会、栄養士大会(日本栄養士会)、日本栄養士会専門分野別人材育成事業、千葉県栄養改善学会 【生活環境学専修】 服飾文化学会第 21 回大会、ファッション・デザイン部会令和 2 年度例会、服飾文化学会 2020 年度論文発表会、環境工学委員会・建築計画委員会合同緊急研究会 【保育・教育学専修】 日本乳幼児教育学会第 30 回大会、日本音楽療法学会
現代社会研究専攻 修士課程	学会参加	2件	神奈川精神保健福祉スーパービジョン研究会、実習スーパービジョン研究会
臨床心理学専攻 修士課程	学会参加	3件	かながわ臨床心理オフィス 2020 年度ロールシャッハ公開セミナー、日本発達心理学会、日本質的心理学会 17 回大会

VIII. 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「令和 2 年度大学院要覧」145 頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第 8 番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和 3 年 2 月 27 日に実施した。総勢 13 名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

令和2年度修士論文発表会(オンライン)スケジュール

日時 令和3年2月27日(土) 9時～ (15:26 終了予定)

- ・Zoom を利用して開催します。ミーティングの URL は後日お知らせします。
- ・お一人の所要時間は17分です。各自の予定時刻2分前までにマイク・カメラの準備をしておいてください。

開会の挨拶 堀江正一人間文化研究科長

総合司会 須田喜代次教務委員長

発表プログラム

時間	発表順	発表者	指導教員
9:00		須田教務委員長プログラム説明	
9:05		堀江研究科長あいさつ	
接続確認 1～5			
9:10	1	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 汪 潔琳	川口美喜子
9:27	2	臨床心理学専攻 加藤 彩夏	古田 雅明
9:44	3	言語文化学専攻 日本文学 鈴木 茉莉子	君嶋 亜紀
10:01	4	臨床心理学専攻 佐藤 知香	古田 雅明
10:18	5	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 阿相 優香	松本 美鈴
(10:35～10:45)休憩・接続確認 6～9			
10:45	6	臨床心理学専攻 宗 杏佳音	田中 優
11:02	7	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 大竹 那実	青江 誠一郎
11:19	8	臨床心理学専攻 増田 有紀子	西河 正行
11:36	9	人間生活科学専攻 保育・教育学 板東 愛理香	岡 健
(11:53～13:00)休憩・接続確認 10～13			
13:00	10	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 鈴木 真理子	田中 直子
13:17	11	人間生活科学専攻 生活環境学 小西 広実	中川 麻子
13:34	12	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 高橋 孝太	岩瀬 靖彦
13:51	13	言語文化学専攻 国際文化 吉越 里桜	松村 茂樹
(14:08～14:18)休憩・接続確認 14～17			
14:18	14	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 土井 玲奈	小林 実夏
14:35	15	言語文化学専攻 日本文学 川野 祐理子	内藤 千珠子
14:52	16	人間生活科学専攻 健康・栄養科学 並河 香代子	松本 美鈴

発表者の持ち時間: 口頭発表 17分(発表 12分+質疑応答 5分)

IX. 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和2年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.31 2021”に掲載される。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、以下の内容はすべてオンラインや誌上開催等平常時とは異なる形式で行われている。

専攻	氏名	発表形式	題目	
人間生活科学専攻 博士後期課程	小野 友紀	論文発表	園児の食事活動への参加過程 園児はどのように自分の食事量を盛り付けるようになるのか	
		口頭発表	保育園児による食事量の判断とその行動化の過程	
	星野 優芽	口頭発表	乳児保育における視線の持つ意味 —0歳児クラスを対象に—	
	三尾 建斗	論文発表	Effects of barley β -glucan with various molecular weights partially hydrolyzed by endogenous β -glucanase on glucose tolerance and lipid metabolism in mice (Mio, K et al.,)	
		論文発表	Effects of β -glucan Rich Barley Flour on Glucose and Lipid Metabolism in the Ileum, Liver, and Adipose Tissues of High-Fat Diet Induced-Obesity Model Male Mice Analyzed by DNA Microarray (Mio, K et al.,)	
		論文発表	Ingestion of high β -glucan barley flour enhances the intestinal immune system of diet-induced obese mice by prebiotic effects (Mio, K et al.,) 3/7 現在 accepted after minor revision	
		口頭発表	高 β -グルカン含有大麦を摂取したマウスは短鎖脂肪酸を介して肝臓、脂肪組織の脂質代謝に影響する	
		口頭発表	焙煎した大麦は β -グルカンの低分子化およびレジスタントスターチの増加によりマウスの腸内環境および糖・脂質代謝を改善する	
	言語文化学専攻 博士後期課程	坂上 幸	論文発表	横光利一「夜の靴」の生成 —戦後山形の農村にみる変革の兆し—
	人間生活科学専攻 修士課程	大竹 那実	口頭発表	大麦と <i>Lactobacillus plantarum</i> の同時摂取がマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響: シンバイオティクス効果の検討
口頭発表			脂肪酸が膵臓 β 細胞の小胞体及びミトコンドリアに与える影響	
鈴木 真理子		ポスター発表	高脂肪酸環境が膵臓 β 細胞のミトコンドリア機能に与える影響	

	並河 香代子	口頭発表	離乳完了から幼児食移行期における保育所の幼児食および幼児への支援の現状
	板東 愛理香	口頭発表	保育における「事故要因分析モデル」の検討
	松家 麻記子	論文発表	保育者養成校におけるパネルシアターの授業の実態 — 全国の保育者養成校へのアンケート調査をもとに —
	腰塚 はるか	ポスター 発表	HPLC による食品中のカロテノイド 9 種の同時分析
	鈴木 歩実	論文発表	居住者参加型賃貸コネクティブハウスに関する研究 その 12 — 「コネクティブハウスかんかん森」における 16 年目の共用空間の利用実態—
ポスター 発表		居住者参加型賃貸コネクティブハウスに関する研究 — 「コネクティブハウスかんかん森」における 16 年目の生活実態と居住者評価—	
言語文化学専攻 修士課程	吉越 里桜	論文発表	中国のスマートシティ化

X. 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「令和2年度大学院要覧」69頁を参照されたい。

XI. 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	進学	・大学院進学
	就職	・学校法人大妻学院 ・オハヨー乳業株式会社 ・大東カカオ株式会社 ・昭和学院短期大学 ・学校法人後藤学園
言語文化学	進学	・大妻女子大学 文学部日本文学科 科目等履修生
	就職	・エヌ・ティ・ティ・システム開発株式会社

XII. 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。

また、「大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例」により勤務形態に配慮した教育

研究体制を希望する学生の入学にあたり、入学先となる人間生活科学専攻教員への周知体制を強化した。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

XIII. 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成23年度入学生より、「中間発表会（旧研究計画発表会）」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

XIV. その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。ただし、今年度は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による授業のオンライン化、授業科目の変更等により実施できなかったものも多い。

ティーチング・アシスタント等について

ティーチング・アシスタント等に任用される大学院生・研究生		担当授業科目					
所属・学年等	氏名	開講学科等	授業科目名	授業担当教員名	開講時期	開講曜日・時限	開講校地
人間生活科学専攻 (博士課程) 1年	星野 優芽	家政学部 児童学科 児童学専攻	保育方法演習	石井 章仁	後期	月曜4限	千代田校
人間生活科学専攻 (修士課程) 2年	阿相 優香	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅰ	松本 美鈴	前期	水曜1、2限	千代田校
		家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅱ	玉木 有子	後期	月曜3、4限	千代田校
	大竹 那実	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	人体構造機能論実験	明渡 陽子 高波 嘉一	前期	金曜3、4限	千代田校
	鈴木 真理子	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	生活環境実験	田中 直子	前期	木曜3、4限	千代田校
		家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	食品学実験	渡辺 雄二	後期	金曜3限	千代田校

	並河 香代子	家政学部 児童学科 児童学専攻	子どもの食と栄養	上杉 幸世	前期	水曜 2 限	千代田校
		家政学部 児童学科 児童学専攻	子どもの食と栄養	上杉 幸世	前期	木曜 1 限	千代田校
人間生活科学専攻 (修士課程) 1 年	鈴木 歩実	社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	環境情報処理論及び 実習 I	大橋 寿美子 鈴木 優志	前期	火曜 1 限	千代田校
		社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	環境情報処理論及び 実習 I	大橋 寿美子 鈴木 優志	後期	火曜 1 限	千代田校
		社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	住居デザイン演習 I	大橋 寿美子 粕谷 奈緒子	後期	木曜 3、4 限	千代田校
	正部家 あゆみ	家政学部 児童学科 児童学専攻	障がい児保育	鳥海 順子	後期	水曜 2 限	千代田校
		家政学部 児童学科 児童学専攻	保育カンファレンス演 習	鳥海 順子	後期	水曜 3 限	千代田校
		家政学部 児童学科 児童学専攻	保育相談支援	高橋 ゆう子	後期	水曜 4 限	千代田校
現代社会研究専攻 (修士課程)1 年	原 くるみ	社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学 専攻	量的調査演習	池田 緑	後期	水曜 4 限	千代田校
臨床心理学専攻 (修士課程)2 年	加藤 彩夏	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナー	古田 雅明 高田 知恵子 中田 香奈子	前期	火曜 4 限	多摩校
		人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	基礎統計学Ⅱ	伊藤 尚枝	後期	火曜 3 限	多摩校
	佐藤 知香	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナー	古田 雅明 高田 知恵子 中田 香奈子	前期	火曜 4 限	多摩校
		人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	心理学統計法	八城 薫	後期	火曜 2 限	多摩校

	宗 杏佳音	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	社会・臨床心理学基 礎セミナー	古田 雅明 高田 知恵子 中田 香奈子	前期	火曜 4 限	多摩校
		人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	基礎統計学Ⅱ	本田 周二	後期	金曜 1 限	多摩校
	増田有紀子	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	心理学研究法	田中 優 本田 周二 春日 文 大久保 暢俊	前期	木曜 1、2 限	多摩校
		人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	心理学統計法	堀 洋元	後期	火曜 2 限	多摩校
臨床心理学専攻 (修士課程)1年	越智 くるみ	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	キャリア心理学セミナ ー	堀 洋元 高橋 南海子 本田 周二	前期	水曜 4 限	多摩校
	鴻上 亮子	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	キャリア心理学セミナ ー	堀 洋元 高橋 南海子 本田 周二	前期	水曜 4 限	多摩校
		人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	心理学基礎実験	田中 優 堀 洋元 伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校
	時田 稜子	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	心理学基礎実験	田中 優 堀 洋元 伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校
	中澤 珠緒	人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	キャリア心理学セミナ ー	堀 洋元 高橋 南海子 本田 周二	前期	水曜 4 限	多摩校
		人間関係学部 社会・臨床心理学 専攻	心理学基礎実験	田中 優 堀 洋元 伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成15年3月7日

制定

(設置)

第1条 大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下「FD」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長 1名
- (2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科FD委員長
- (3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長
- (4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各1名

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

(任期)

第3条 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) FDの企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
- (3) FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
- (4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるFD活動に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認める事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 事務局長、教育支援センター一部長、多摩事務部長
- (2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。
ただし、第7条第1項第1号の規定は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年5月7日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員名簿

		令和2年度
副学長(委員長)		山 倉 健 嗣
副学長		高 山 宏
人間文化研究科長		堀 江 正 一
家政学部長		市 川 博
文学部長		五 十 嵐 浩 司
社会情報学部長		藤 村 考
人間関係学部長		福 島 哲 夫
比較文化学部長		佐 藤 円
短期大学部長		松 木 博
委員	人間文化研究科	古 田 雅 明
	家政学部	小 林 実 夏
	文学部	興 津 妙 子
	社会情報学部	木 村 ひ と み
	人間関係学部	本 田 周 二
	比較文化学部	井 上 淳
	短期大学部	岡 田 小 夜 子